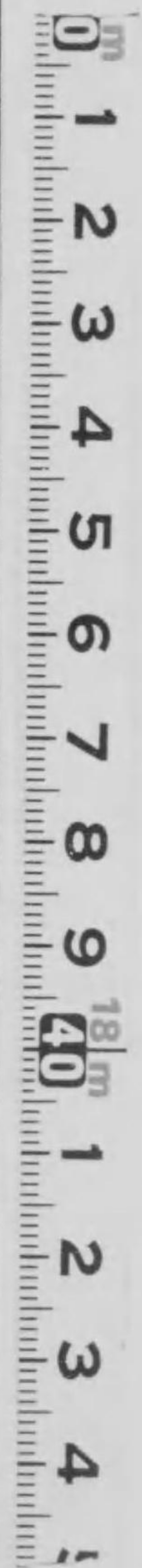


290  
35



始



本 90 33

290

35

文部省主催

# 實業補習教育講演集

農 村 問 題 橫 井 時 敬	都 市 補 習 教 育 佐 野 利 器	農 村 補 習 教 育 ニ 就 テ 澤 村 眞	實 業 補 習 教 育 ニ 於 ケル 公 民 教 育 關 屋 龍 吉	經 濟 事 情 渡 邊 鐵 藏	實 業 補 習 教 育 制 定 山 崎 達 之 輔
--------------------------------------	--	--	--	--------------------------------------	---

新瀨縣教育會發行

工ト 9D33

290-35



今や世を擧げて、國運進展の基礎を民衆文化の充實に需むる時代となつた。

實業補習教育は、民衆文化の充實に重要な意義を有するものであつて、其の振否は、實に國運の消長に關するものである。彼の英のフィシャー案、米のスキスフィウズ例を始として列強が斯教育の發展を、戦後經營の一要諦となしつゝあるのも、誠に偶然でないのである。

昨夏文部省が、本縣に於いて、長野・石川・富山及本縣の四縣當事者を集められて、實業補習教育講演大會を開

大正 11. 3. 6  
内交

かれ、本縣亦同教育協議會を開會あつて、斯教育振興の機運を促進せられたのは、眞に時代に適應せる施設であつて、其の効果は甚大のものであつた。今本會に於いて、同速記の原稿を請うて出版し、之を全國の有志者に頒つのも一に同教育振興を圖つて民衆文化の充實に資したい微衷に外ならないのである。

大正十一年二月

### 新潟縣教育會

## 實業補習教育制度

文部省實業學務局長 山崎達之輔

## 實業補習教育制度

今回、文部省に於きまして、實業補習教育講演會を催すことになりましたが、其の第一着をいたしましたして、御當地に於て講演會を開催することになつたのであります。其の第一着に御當地で開催するといふことになりましたのは、最近に於きまして、新潟縣が知事閣下を始め、其の他の關係者の方々の非常なる御盡力により、實業補習教育上、一大進歩をいたしましたといふ事と、長野縣の如く、従前から實業補習教育が非常に發達して居る、其れから又石川縣・富山縣のやうに、縣の御當局が非常に御努力をなされて居りまするので、先づ此の地方を選んで此の講演會を開催することになつたといふことは、文部省をいたしましても非常に欣快に思つて居る次第であります。尙

は文部省開催といふ事ではございますが、縣の御當局に於て大なる御同情と御助力とを得ましたことは深く感謝する次第であります。又御來會の方は長野・石川・富山と遠方にも拘はらず、多數御來會を得ましたことは、當局として改めて茲に深く感謝をする次第であります。

實業補習教育の必要なることは、私が改めて申すまでもなく、皆さんに於ては十分御承知のことではありますが、今日、日本全体の状況を概観いたしますれば、小學校の教育を終るものは、年々、正確に申せば、九十七萬人即ち約百萬人であります、此の約百萬のものが、年々小學校を終るのでありますが、其の百萬人の中で高等小學校に入るとか、中等學校に進むとかいふものが、どれ位あるかと申しますと、中等學校に進むものは十三四萬に過ぎぬのであります、勿論、私が中等學校と申すのは、中學校高等女學校であります、其の他に實業學校もありますから此等各種の學校を加へますると十五六萬になるのであります、小學校の卒業生百萬の中で十五六萬といふもの

が中等教育を受ける事が出来るので、残りの八十餘萬といふものは之を受けることが出来ないであります。中等教育のことは、今日演題の主意でないのでありますから委しくは申しませぬが、中等教育の方面に於ても現在教育機關の不足を感じて居るのであります、大いに増加を圖らなければならぬのであります、其れよりも徒弟教育・實業教育といふ方面の教育機關を益々擴張増加しなければならぬと信するのであります。然しながら、中等教育機關を増加するといたしましても、それらの増加といふ事は容易ではなく、一定の限度もあるからして如何に之を増加したとしても、小學校卒業者の二割若くは三割も收容するといふ事は面倒の事でありますから、私は近き將來に於て中等教育を十分に増加するといふ事は、非常に面倒のことであると思ひます。又中等教育が十分に發達したといたしましても、徒弟教育は矢張り益々必要を増して來るのであります。尋常小學校を卒業したものゝ七八割といふものは、小學校の教育を終ると中等教育を受けないで、直ちに社會に飛び出さねばならぬのであります、小

四  
學校卒業者の十分の七八といふものはさういふ境遇のもので、言はゞ、大多數の國民は、小學校教育だけで止めてしまふのであります。従つて此の大多數のものゝ教育を如何にするかといふ制度は、國家として洵に重要な制度でありまして、此の大多數の國民の教育如何によつて生ずる國家に對しての影響は、實に重大なる所のものであります。それで、それら大多數の國民に對して十分なる補習教育を施すといふことは、國家の向上發展に大なる効果と、大なる利益のある所であることは私が改めて申すまでもないことであります。私の見る所によりますれば、此等國民の大多數に最も必要なるものは職業教育であります。尙ほ之と同時に或る程度の公民教育といふことも極めて大切なることでありまして、此の二つの事は獨り日本のみならず、世界全体何れの國に於ても必要として居るのであります。目下の日本に於ては特に緊要なることと思ひます。日本は、文化教育の方は沿革も古く、相當の發達をして居りますが、實業とか、勤勞とか言ふ方面の教育には尠からぬ缺陷がある様に感ぜらるゝのであり

まして、此の意味に於いて、補習教育に於いて職業教育を重んずることが如何に重大なる意味を有つて居るかといふことは私が改めて申すまでもなく、皆さん御同感のことであらうと思ひます。近き將來のことは豫言の限りではありませんが、現在は國民の義務教育といふものは六ヶ年でありまして、殊更補習教育といふものが重大なる意義があるのであります。勿論、補習教育といふものは、小學校を終つたものに公民教育・實業教育を施すのであるが、實際の事情から考へて、斯種の教育は極めて大切な事である。そこで、例令義務教育の年限が八ヶ年に延長されても、實業教育・公民教育の必要なることには變更はないのであります。況んや、現在のやうに六ヶ年の義務教育制度の下に在つては特に必要を感じて居るのであります。甚だ僭越ではあります。が、歐羅巴諸國の現狀に就いて少しく申して見ますれば、小學校は日本と違つて皆八ヶ年の義務といふことになつて居るのであります。此の補習教育と言ふ事については特に力を入れて居るのであります。先づ亞米利加について申し上げますが、亞米利

加に於ては、中央政府は教育に關しては特に積極的の仕事をやらないのであります、即ち日本のやうに文部省といふやうのものはなく、唯教育局といふものがあつて、其處で教育に關する材料を集めて、統計の作製とか、調査研究とかいふやうな事務をやつて居つたのでありますが、最近、歐洲戰爭の影響と經驗とに依つて、小學校教育とか、中等教育とか、大學教育とか言ふ教育機關以外に、別種の機關を整備し擴張して前述の教育を受けてゐない者の爲めに、十分教育上の機會均等を與へたいと言ふことから、亞米利加では所謂スミス、フューズの法律といふものを發布したのであります、それによると、中央政府は、金額に多少の差はあるが年々約七百萬弗を支出して、其の中の參百萬弗は農業教育の爲の補助、他の參百萬弗は工業・商業及女子の家事教育の爲に、更に残りの百萬弗は是等の教育に従事する所の教員養成の爲に支出する事になつて居るのであります、即ち中央政府から此の様に多額の補助金を支出して、各種の學校に對して相當に高い程度の補習教育を施すやうに鞭撻獎勵して居るのであります

す。此の制度を設けてから、昨年一昨年の僅か二年間に、合衆國の各州に於ける中等教育・實業教育が非常に振興發達して來たのであります。そこで、從來亞米利加には、義務制度といふものは無かつたのでありますが、此の結果として遂に義務制度を布くといふことになつて、今日では二十五州は補習學校に對し何れも義務教育制度を實施して居るのであります。之と同時に各州に於ても、中央政府から支出する七百萬弗と同額若くはそれ以上の補助金を支出して、補習教育の義務制の實行を獎勵して居るといふ状態になつて居るのであります。而して各州の制度を見てみまするに、州によつて種々の差別はあるが、地理或は歴史といふやうなものには餘り力を入れないで、公民教育とか、實業教育とかいふ方面に最も力を入れて居るのであります、其の大略を述べますれば、茲に一つの町村があり、十八歳未満のものが二十人以上ありとすれば、必ず補習學校を立てなければならぬ、又一千以上の人口を有する所では必ず補習學校を建設しなければならぬのである、而して此の地方に於ける十八歳未満のものは必ず



補習學校に就學する義務を有するといふやうな規定になつて居るのであります。其の教授時間は地方によつてまち／＼であるが、普通一週八時間であつて、非常に少い所でも一週四時間といふことになつて居ります。要するに、從來國家的に強制とか、義務とかいふことのなかつた亞米利加が、特に補習教育について特に新しい制度を設け、急速に著しい進歩發達を圖つたといふのは、這般の歐洲戰爭の經驗によつて、從來の制度の上に最も重大なる缺陷があつたといふ事に氣が付いて、此のやうな大改革を行つた次第に外ならぬのであります。次に、英吉利のことを申したのであります。英吉利のことは、日本でも四五年前から可成り紹介をせられて居るのでありますから、皆さんは既に御承知のことでありませうが、彼のフィツシャー案によりますれば、十八歳未滿のものには、必ず一週八時間、一ヶ年三百二十時間以上の教育を施すといふことが法律で規定せられたのであります。其の法律は種々な事情から制定後無實施の儘であつたのであります。本年から愈々之を實施したといふことを最近歸

朝の方から聞きましたが、英吉利の補習教育も是から急速の進歩を見るであらうと思ひます。次に、佛蘭西は補習教育の義務制を未だ實施しては居りませぬが、之も戰爭中に思ひ切つた補習教育制度の改革に關する法律を發布したのであります。それによると、二十歳以下の者は義務として是非補習教育を受けねばならぬといふ法律であります。最後に獨逸の事を申し上げますが、御承知の如く補習教育に關しては、獨逸の沿革が最も古く、日本の補習教育も之に負ふ所が尠くありませんので、詳しくは申しませぬが、獨逸は只今戰爭に敗れて、國力も非常に疲弊をして居るので、従つて此の補習教育も多少衰へて居るかのやうに認めらるゝのであります。何にせよ今日まで既に三十年以上の沿革を有し、世界中で最も完備し最も發達した國でありますから、例令、戦後非常に疲弊して居る際にあつても、補習教育の必要な事は以前よりも、より多く感じて居るので、今日に於ては新獨逸の憲法中に特に補習教育の義務といふ簡條を挿入して居る様な有様であります。從來は、各州とか、自治領とかに委して居

つたのが、今日は憲法の一項に入れたといふことは如何に補習教育を重大視して居るかを知らることが出来るのであります。要するに、補習教育の問題は以上各國の例を申し上げましたやうに、世界列國に於て各自が充分に力を入れて其の振興發達に努力して居る所の目下重大なる問題であります。翻つて日本の補習教育の状況は如何であるかを見ますると、各地方とも餘り振はないのであります。勿論、御當縣の如き、長野・石川・富山の諸縣の如きは、非常に補習教育振興の氣運が向いて來て、其の状況も大いに改善せられて來て居るのであります。日本全体として見れば頗る貧弱なものであります。學校の數は年々千四五百宛殖えて來て、大正六年度には一萬千位であつたのが、二千となり、三千となり、昨年大正九年度には一萬四千となつたのであります。經費の方は、各市町村の支出に係るものが、大正六年度には百拾萬圓、大正七年度百八拾萬圓、大正八年度參百萬圓、大正九年度には四百七拾萬圓に上つたのであります。之を學校數の一萬四千で割つて見ると一校平均約參百貳拾圓といふ誠に少い

極めて貧弱なものであります。其の中長野縣は、一學校の平均が大正九年度に於て、七百九拾圓であつたのであります。御當縣は、昨年までは大したことはなかつたやうであります。本年はどのやうになつて居りますか、未だ統計を見ませぬから解りませぬが、定めし面目を一新して居ることであらうと思ひます。兎に角全國の狀態を見るに、學校の數は一萬四千になつたが、經費は一校平均參百貳拾圓といふ誠に貧弱なものであります。次ぎに、教員はどうかと申しますと、全國を通じて約四五萬人と言ふ多數であります。此の中に於て所謂專任教員といふべきものは僅に二三千人に過ぎない有様でありますから、少し極端の言ひ方ではあります。教育の内容も徒らに唯看板を掲げて居ると申してもよろしいのが可成り澤山ある様であります。尤も良く整つて居る所は仲々好い成績をあげて居るのであります。日本全体を通じて見ると大体右様の状況であると申さなければならぬ現狀であります。先程も申しました様に、歐米諸國に於いても此の補習教育に關しては非常なる努力をして居るのであり

ますから、我が日本に於いても補習教育の現状を此の儘にして置くといふことは實に忍び得ないことでありまして、是非共、内容を充實して之が振興發達を圖らねばならぬと言ふ氣運に際會して居るのであります。然らば、此の際、どういふことに向つて努力をすることが最も必要であるかといふ事を少しく述べたいと思ひます。大体先程も申しましたやうに、學校數は約一萬四千と言ふ多數に増加して、數の方では可成り普及して參りましたが、尙ほ之れが分布の状態を仔細に點檢して見ますと、まだ補習學校の設のない町村が約三千ほごあるのであります——勿論、今日は之よりは減つて居りませうが、一昨年に於いては一萬三千の町村の中で補習學校の設のない町村が三千位はあつたのであります。それからまた補習學校に於ける就學の狀況を見ますと、先きも申しましたやうに、尋常小學校を卒へるものが年々約百萬人、高等小學校に向つて進むものが年々四十四五萬人、中等學校に進むものが各種の學校を加へて先づ十五六萬人といふことになるのであるが、此の尋常小學校若くは高等小學校を卒業する

ものは、理論として皆補習教育を受けなければならぬのであるが、實際に於てはそれ等の約八十萬人中約半數即ち四十萬人だけが補習學校に入學して、残りの四十萬は小學校の教育を卒つただけで何等の教育をも受けないと言ふ有様であります。然も此の補習學校に入學せりと言ふ四十萬人の教育狀況も洵に遺憾に堪えないといふ點が尠からぬのでありまして、補習教育の普及といふことも、今日の狀況では唯學校を建てることだけは建てたと言ふ位で、就學歩合とか、教授の内容とか言ふ點に對してはまだまだ大なる努力と改善を加へなければならぬのであります。次ぎに、經費との關係であります。御承知の通り市町村の財政は、今日に於いては殆んど餘裕がないと言ふ程でありまして、教育の爲めに經費を十分にしたいといふことは、衷心より希望する所であります。が何分至難のことでありませう。併し乍ら、何を言ふにも、補習學校の一枚當り經費が僅に參百圓やそこらでは如何に工夫しても十分なる成績を擧げることとは先づ不可能であらうと思ひます。固より補習教育は、他の學校の様に豊富

なる資金に依つて、教育を授けるのは違つて簡易なる組織と、僅少の經費に依つて教育の効果をあげる事を原則として居りますが、之が經營に必要なだけの金を使はないでは到底成績を擧げる事は出来ないであります。そこで、是非共、今日より以上に經費の増額を願はなければならぬのであります。次ぎには、補習學校の制度を根本的に刷新しなければならぬと思ひます。此の事柄は今日の私の演題の主要なるものであります。從來實業補習學校に關する制度は、御承知の通り國の制度としては極めて空疎なるものであります、空疎といふ事は語弊がありませんが、極めて漠然たる所の制度が發布されて居つたのであります、即ち學校の目的、修業年限、學科といふやうのものが、何等國の制度として決定して居らなかつたのであります。思ふに、斯くの如きは補習教育といふものが極めて幼稚であり、發達の初歩の時代に於ては、何よりも先づ學校の普及を急務とする、そこで學校に關して餘りむづかしい規則を立てるのはどうかといふ事から、我が政府としては、この様な方法を取つたのであります

決して之を以て其の本旨とする次第ではなかつたのであります。然るに今日は最早や斯かる幼稚の時代を經過し、段々に發達をして斯教育の内容を引き締めて行かなければならぬ時代に際會したので、自然、國の補習教育に對する方針も從來の儘では洵に遺憾千萬である、少くとも今後の補習教育制度は、方針の明瞭な、餘程力強いものでなければならぬといふことから、昨年文部省に於て補習教育制度の改正を企て、其の制度を確立して新に發布した次第であります。只今其の概要を申し上げます——これは御承知の事でありませうから、其の概要だけを簡單に申して見たいと思ひます、先づ今回の規程を制定するに當りまして最も慎重に考へたのは、年限即ち修業年限の事です、實業補習學校の修業年限は、從來各地方で夫々準則の御定めがあつて極めて短い所のももあり、又時には二十歳までを就學期として居る極めて長い所もあつてまち／＼になつて居つたのであります、之は無理もない事だらうと考へて居ります、先に述べました外國の制度に於きましても、佛蘭西の草案のやうに、滿二十歳を

終期として居るのもあり、亞米利加や獨逸のやうに、滿十八歳を終期として居るのもあつて、外國でもまち／＼になつて居るのであります、そこで、日本の今日の現状から見まして、何歳までを最も適當とするかと言ふ事を、種々の方面から研究いたしまして、先づ都會では滿十六歳、地方では滿十七歳までを補習教育の時期とすることが最も適當であらうといふことに決定いたしましたのであります、即ち尋常小學校を卒へたものは農村では五ケ年、都會では四ケ年、高等小學校を卒へたものは農村では三ケ年都會では二ケ年補習學校に入學する譯であります、而して年限に差を設けたが、短いと云つても決して薄つべらな教育を授けるといふことではなくして、寧ろ壓縮した濃厚なる教育を施さねばならぬといふ趣旨であります。それから此の年限を經過した所の十七八歳から徴兵適齡までは、更に學校に残つて此の間は教へるといふよりも、寧ろ指導といふことを主として取扱つて行くのであります、即ち最初の四年或は五年は教へるといふことにし、それ以後は指導することにしたなら最も適當であらうといふこ

とで、修業年限の本体を四年又は五年といふ事にしたのであります、勿論、土地の情況に應じて之れを伸縮をする事は差支へないが、補習學校の修業年限としては、之れ位が適當ではあるまいかといふ事で右の様に決定した次第であります。而して右の修業年限四ケ年若くは五ケ年の期間も、教育の方法目的に依つて自ら時期を劃する必要があらうといふことで、之れを又前期と後期との二期に分けたのであります、或は地方に依つては之れを初等科高等科といふて居る所もありますが、文部省では前期後期として前期二ケ年後期二ケ年或は三ケ年といふことにして居るのであります、従つて前期後期は教育の眼目が違つて居るのであります、是も規程を見ると自ら解るのであります、此の前期は、何れかといへば普通教育に力を入れる、勿論、實業教育にも力を入れることも必要であるが、日本のやうに小學校の義務教育年限が短くて普通教育の力の不足の所では、前期に於ては普通教育の方に、より多くの力を入れなければならぬのであります、それから後期の教育は、補習教育本來の性質に鑑みて、實業

教育・公民教育を受けることを眼目として、學科目も此の精神からして配置して居るのであります。次に、時間數でありますが、之れも本令に書いてあるやうに、今回は週標準を以つて示すことになつて居るのであります、從來は如何にも補習學校の教育としては、時間數の少いに失する所が可成りあつたのであります、勿論、餘り多くを望むといふことも困難なことではありますが、さりとて餘りに少なければ、自然其の効果も貧弱なるを免れぬのであります。それで、今回の規程には少くとも一週六時間乃至八時間は教授をして貰ひたいといふことで、時間數の規程を設けた次第であります、尤も補習教育は贅澤の教育ではなくして、極めて緊縮した所の教育であるからして、學科目なども慾をいへば限りがないが、此の點に關しては最も選擇に注意をしてやつて行くといふことが肝要であらうと思ひます。それから高等補習學校といふものを制度上、認めることにしたのであります、之れは何れかといへば、都會地に適當のものであらうかと思ひます、即ち既に實業學校なり、中學校なりを卒業したものと

又は補習學校の後期を終つたものなどが、更に進んで高等の補習教育を受けたいといふ希望者が澤山あるので、是等のものに對して適當に指導する所の補習學校といふものを認めたのであります。又農村に於いても養蠶とか、肥料とかいふ特殊のものに就いて充分に教へる必要を認めて居るのであります、農村では、斯種の高等の補習學校ではなく、寧ろ指導や修養を眼目とした學校が、必要であらうと思ひまして、後期を終つた所のものを更に在學せしむる規程を制定したのであります、詳細に申し上げますれば限りはありませんこと御座いますが、今回改正せられた規程の眼目とする所は大體右の様な次第であります。然らば今回の改正規程の運用は、どうやつて行つたらばよいかといふことを大略申して見たいと思ひます、先づ第一に教科書といふものを、國家として制定しなければならぬと思ひますが、此の點については、國家として何等發表して居らぬのであります。然るに幸にも各府縣の教育會などでは、夫々地方に適切なる教科書を編纂して居られますが、國家としても是等のことについては、

今後何かと計劃をして適當なる措置を講じたいと考へて居る次第であります。それから何よりも大切な事は教員の關係であるのであります、教員の事は、先きにも一寸申しましたやうに、今日五六萬人の補習學校關係の教員の中で専任教員が、極めて少數であるといふことは洵に遺憾に堪えぬことでありまして、何とか此の上に増員をしたいと考へて居るのであります、尤も今日の地方の財政から考へまして、専任教員のみを得るといふことは到底期し得べきことではないのでありますから、大体は、小學校に職を執つて居られる所の方々とか、實業に従事して居らるゝ方々に御願ひしたいのであります、補習學校の仕事を自分の本務として専心にやる所の専任教員の少いといふ事は非常に遺憾な事である。そこで、其の教員を澤山に養成しなければならぬといふ考から、昨年以來、専任教員に對しては極めて少額ではあるが、専任教員給補助の令を出し、尙ほ教員養成所に關する規程並に、其の施行規則といふものをも發布したのであります、各地方とも續々養成所を設けられて適當なる教員を養成し、又

専任教員の増加を圖られて居るのは洵に喜ばしい事であり、従つて補習教育の面目も、數年後に於いては大いに改まるであらうと思ひます、此の教員養成所令の運用については、地方に於いて特に御注意を願ひたいのであります。次に、教員の待遇であります、從來補習學校の教員の待遇は極めて悪かつたのであります、此の點にも今回は相當の改善をやつたのであります、從來の補習學校の教員は、小學校の教員と中等學校の教員の間で挾つて兩方の缺點を有つて居つたのであります、小學校の先生の特點には補習學校の先生は加はらず、却て其の缺點にのみ仲間入をする、又中等學校の先生の特點には補習學校の先生は除外されて、只其の缺點計りを振分けられて居つて、誠に割の悪い地位に置かれてあつたのであります、當局も此の點を甚だ遺憾として、今年は頗る急激ではありましたが、補習學校の教員の名稱・待遇・年功加俸も中等學校同様に改善を加へたのであります。思ふに、補習學校は、經營が頗る困難でありまして之れが相當の成績を收めるには、獻身的の努力が必要であるのであります、

素より如何なる所の學校も、之れを經營するには獻身的の努力が必要ではありませんが、補習學校は沿革も新しく、従つて其の經營も殊に困難な事情があるから、之れが經營の任に當る所の教員を優遇することは、何よりも必要であることを認めて今回の改善をやつたのであります、斯ういふ工合でありまして、政府としては、補習學校の改善發達を圖る上に於いて出来るだけのことをやつて行きたいと思つて居るのであります。唯茲に一言申し加へたいことは、教育上のことは、其の効果が一朝一夕に顯はれるといふことは頗る困難のことであるからして、此の度の改正が二年や三年の中に効果を顯はすといふことは望まれないのであります、外の教育機關は、三十年なり、五十年なり、可成り古い沿革を有つて居つて、既に其の効果を認められて居るのであります、補習教育が生長し發達するのは今日以後のことであるからして、十分なる効果を擧げるには、堅忍持久の精神をもつてやつて戴きたいと思ひます。幸今日御列席の方々は、直接補習教員に従事して居られる方とか、指導の任に當つて居られる方

とか、また町村に御關係の方々もありますから、一言希望を申述べた次第であります。兎に角斯ういふことは、之れが經營の任に當つて居る當事者とか、または役所の方々だけの力のみでは出来ぬものでありまして、是非共、廣く社會の援助と理解とを得ることが必要のことです。今後一層社會の援助と理解とを願ひたいのであります。

甚だ粗雜のことを申しましたが、時間が參りましたから、私の御話はこれ位で止めて置きますが、吳々も補習教育といふものは、今日以後に於いては、國家として非常に大切な事であるから、皆さんも特に此の點を御察し下さいまして、御盡力下さいますやうに希望して此演壇を下りたいと思ひます。(拍手)



經濟事情

東京帝國大學教授  
法學博士

渡邊鐵藏

## 經濟事情

今回、文部省に於きまして、實業補習學校の規則を御改正になるにつき、私も其の一部分の商業方面の委員の役目を仰付つて居つたといふ關係上、今日此席に於きまして皆さんに實業補習教育の宣傳講演に携はる所の光榮を得ましたが、私は經濟事情といふ題の下に一言申して見たいと思ひます。

經濟事情といふと、何んだか漠然として居つて、御聞きになる方も何の問題であるか、又話す方でも何を話せばよいか、又どういふことが實業補習教育の宣傳になるのか一寸解り兼ねますが、兎に角日本の經濟の情態とか、資力の情態とかいふやうのことを話しまして、將來吾々が此の經濟方面に對して如何なる考慮を拂はなければなら

ぬかといふことを申しまして、國の政策は素よりであるが、教育の方針といふやうのことに對しても、多少の參考になるならば望外のことと思ひます。

幸ひ我國は明治維新以來、國家の基礎を鞏固にする爲めに、教育の制度を施いて學校を起し、法律制度を定め色々の方面に努力をして居るのでありますが、殊に經濟の方面に於ては最も大なる苦心と努力を拂つたのでありまして、政府が我國の經濟力を今の情態にする爲めには、幾多先進國の間に挾つての苦心は非常のものであつたのであります、彼の獨逸が歐羅巴の富國の間に介在して非常の苦心と努力の結果、遂にそれらの諸國に劣らないやうになつたのと丁度日本は似て居つたので、其の獨逸を眞似てやつたのであります、幸ひ東洋の周圍には強國はないが、それでも政府は世界列強の間に位して、各種の施設に對して大なる努力をなしたといふ所に今日あるをいたした原因があるのであります。さて、國民の經濟の發展を期するが爲めに、政府のやるべきことは大概見當が定つて居るのでありまして、即ち一つは保護貿易主義とか、

自由貿易主義といふことであります、其の國の經濟を保護し發展させるには、關稅政策によるとか、特殊の工業に補助金や獎勵金をやるとか、或はまた特別に税を免除するのである、例へば臺灣の砂糖とか、化學工業を補助したり、輕便鐵道に對して補助金を與へるといふやうの類で、政府はあらゆる手段を盡して内地の産業の振興や經濟の發展を圖つて居るのであります、日本の政府は此のやうに他の國家のやつて居ることは、皆之れを日本に採つてあらゆる手段を盡して、工業とか、農業といふやうのものはいふに及ばず、特殊の産業に對しても出来るだけのことをして居るのであります。併し乍ら、物質的の保護とか、獎勵といふことのみを考へて援助することも必要ではあるが、唯それだけでは十分とはいふことは出来ないものでありまして、一方に於てはもつと根本的に國民の能力を向上させるといふことは、物質的援助よりも、根本的であつてまた永久的のものであつて甚だ必要な手段方法であります、即ち専門的知識を授ける爲めに大學とか、高等の専門學校を建てるとか、他の一方には専門的に

學問の蘊奥を極めるのではないが、學問を廣く一般に普及せしむるといふ意味で、各種の實業學校を建てるとか、又は今日の御會合のやうの實業補習學校を建て、實業教育の普及を圖るといふやうにするのであります。日本も此の數十年間に段々と進歩して來て大体の基礎が少しは出來て來て居るのであります。そこで前に申した直接に、物質的に保護助長する方法、即ち補助金を與へるとか、助成金をやるといふことは弊害を生し易いのであります。日本にも其の弊害があるのであります。のみならず此の直接の方法は一時的であつて永久的でなく、また他力的で自力的ではない、之に反して他力的・一時的ではなく、その上弊害のない所の根強い所の知識を基礎として生産力を増して行くやうにすることが最も必要のことである、即ち完全なる實業の發達を期するには、政府より補助金をやるとか、助成金を與へるといふやうのことであつては弊害も生じて來るのみならず、實力が得られない、眞の力といふものが得られないからして、日本の實業を徹底的に發達させやうとするには、根本的に實力を養ふ所の

教育をするといふことが最も必要のことであつて、國民の實力が外國人に較べて一歩も譲らぬといふことでなければならぬのであります。以前は政府の人と、民間の人との知識が非常に違つて居つたからして、一にも政府、二にも政府、と政府に依頼するといふ状態であつたが、そんなに政府にばかり依頼して居るやうではいかぬ、自力でやるのでなければ眞の産業の發展は望まれぬのであります。殊に海外に於いて發展をするとか、外國を相手に仕事をするといふには、どうしても自力といふことが大切である、それには自力で仕事をするこの出來るやうに知識を授けるとか、自力の精神を養成するとか、又は其のやうの人格を作るとかいふやうに、凡てに對して自力的の精神を養ふやうの組織をやつて行かなければならぬのであります。今までの日本の産業は、各種の生産物を日本で造るといふことのみ没頭して居つたのであつて、今までの日本は外國で出來るものを日本でも造らなければならぬ、ごうかして日本でも早く外國と同じ様のものを造りたいといふのであつたが、英吉利・亞米利加等では、既

にそれよりも一層先に進んで、如何にして生産費を安くするかといふことを考へてをります。最近には科學的管理法といふことが、亞米利加などでは研究せられて居るが、日本では、そこまではまだ進んで居らぬが、將來は其處に到らなければならぬと思ひます。此の様に一方には生産に従事して居る人の能率を増す爲めに、知識を授けたり技術を磨くといふことの外に、一方には無駄のないやうにする爲めに、科學的の組織をして成るべく生産費を安くして、諸外國との競争に打ち勝たなければならぬのであります。兎に角日本の産業も、明治維新以來、政府の保護と民間の努力とによつて、或る程度までは進んで來たのでありますが、之れが經營を十分にする爲め、我が國の經濟事情はどれ程まで進んで居るかといふことを外國と比較して御話して見たいと思へます。

今回の戦争に於いて、日本は海運の収入が數億あつたとか、貿易の出超で數億の正貨が入つて來たとかいつて居るが、之れによつて、日本の國民は何を得たかといふに、

物價の騰貴と生活上の不安との二つを得たのみである、それに國民としての不安と社會的不安とを得たのであつて、唯それ位のものであつて、其他には何等の得物もないのであります、強いて申せば、世界の外交上に於ける立場が少しく向上した位のもので、物質的に得たものゝ如きは殆ど言ふに足らぬのであります、それで、其の物質的に得たものはどんな様子であるかといふに、國の資金がいくらか殖へたのであります。國民の資力を表はすに最も解り易いものは預金を見る事であり、其の預金が大正三年には貳拾八億圓であつたのが、數年間に段々殖えて來て、現在では百億圓に殖えて來て居るのであります、東京市だけについて見ても、戦争前、東京組合銀行の預金が貳億から參億迄殖えるには、少からぬ所の年限を費したのでありますが、開戦後、此の參億から現在の十七億になるには、僅か數年の間であつて、平常ならば、かゝる大激増をするには、數十年もかゝらなければならぬ位のものが、僅かに數年間に出來たのであります。又郵便貯金を見ても、大正四年に壹億九千萬圓であつたものが、大

正九年末には八億貳千萬圓となり、僅かに四年間に六億參千萬圓も殖えて居るのであります。此のやうに資力が殖えて居るのでありまして、之れを以て生活の改善といふやうの方面に力を用ゐれば大なる効果があるのでありませうが、國民がいくら儲けてもまだ儲けたいとか、投機的に流れて來たからして、經濟界の變動があれば忽ちにして多くの商人が倒れるといふやうの譯で、經濟上の生活には不安こそは増して居るが、一向改善されて居らぬのであります、物價の騰貴は益、甚だしくて止まず、生活難は次第に激しくなつて來たのであります、戰爭の起つた所の大正三年の物價を百とする、最も高つた時は大正九年の二・三月頃であつて、財界の變動が三月に起り四・五月と非常に慘憺たる狀況を呈したのであるが、其の三月が物價の最高時であつて、開戦時の物價を百とすれば、三百三十八といふ高價を示したのであります、ロンドンに於ては交戦國の經濟上の中心をなして居つた所であるが、それでも東京程ではなく、昨年三月には三百二十六であつた、ニューヨークは二百四十で開戦時より二倍幾らといふこ

とになつて居るのであります、物價指數の最高に達したのは此の三ヶ國共、同じく昨年の三月であつて、此の三月が最高で、それからは日本のみならず、世界一般に財界の變動があつて、漸次物價は下つて來たのであります、此の三ヶ國の物價と比較して見て、日本が最も高かつたといふことが御解りであらうと思ひます、尙ほ昨年暮に於て三ヶ國の物價はどうであつたかといふに、東京は二百十六、ロンドンは二百三十一、ニューヨークは百五十七といふことになつて居る、東京も三割強下つて居るが、まだ戰爭前に較べれば二倍強になつて居るのであります、一方國民の資力は殖えて居るが、物價が騰貴して居るからして一向に生活が安定せぬのであります。又日本は戰爭中儲たといふので正貨が殖えて居るが、正貨も開戦當時は參億四千萬圓位であつたのが、現在は貳拾億圓以上になつて居るが、如何にも盛んの時分に貿易の収入が多かつたり、運賃収入が多かつたりしたので、正貨が段々殖えて來たといふて夢中になつて居つたが、其の夢に酔つて居る間に、色々の害毒も流され不安も生れて來たのであ

ります。成る程其當時は運賃も澤山に儲つたでありませうが、今では害ばかり残つて利益は何にもないといふことになつてしまつたのである。また貿易も其當時は随分利益があつたであらう、日本はまだ其の頃は賃銀なども至つて安かつたからして、其の當時は随分色々利益が多かつたであらうが、今日は賃銀も上つて勢力が安く得られなくなつたからして、従つて利益が薄いといふことになつたのであります。現在の日本の國民經濟は、戦争前どのやうに進んで來たかといふに、唯外債を少しばかり返したといふことだけで他には何もよくなつた所はないのであります。併し乍ら、將來歐洲の列強に對して、其の間に伍して吾々は安心してやつて行くことが出来るか、どうか、之れは深く研究すべき問題であります、それで、私は其の事につきまして簡單に申して見たいと思ひます。

先づ吾々の經濟關係に最も深い關係のある所のものは何であるかといへば、それはいふまでもなく土地であります、自然であります、土地が多くて自然力が多いといふことになると、資本などは期せずして多く集つて來るのであります、其の國の自然が豊富であるか、其の民族の占めて居る所の土地が多いか、又其の國民の能力、知識がどれ程進んで居るかといふことで其の國の經濟力は極るのであります、貧弱の狭い土地に、能力のない民族が居つたならば、日々の生活の苦しいばかりでなく、資本などは一向集らぬ。さて、國民經濟生活の根本になる所の土地は、日本はどのやうであるか、先づ日本の人口は、今度の國勢調査の結果によると、五千五百九十萬人あるが、それが外國とどういふ割合になつて居るかといふに、日本の人口を一とすると、英吉利は殆んど同じで日本の九割位である、それから亞米利加の人口は日本よりも七割位多いのであります、獨逸の人口は日本よりも三割多い、それ故に、同じ生活問題にしても、日本は六千萬人の生活の問題で、亞米利加は一億何千萬人のものゝ生活の問題であるといふことになるのであります。尙ほ殖民地の人口を加へると、どういふ工合に人口の状態が變つて來るかといふに、日本も殖民地を加へると殖えて來るが、外國

は多くの殖民地があるからして尙更殖えて來るのであります、それで、亞米利加はどうかといふに、殖民地の人口は本國の人口の一割位で殆んど變りがないといつてもよい位であるからして、亞米利加の人口は日本の一倍半位になる、それから英吉利は、非常に澤山の殖民地を有つて居るからして、其の殖民地を加へると、人口は日本の六倍になる、獨逸は日本と殆んど同じであります。斯ういふ關係になつて居るのであります、之れだけの人間で之れだけの土地を支配して居るかといふ事になると、餘程問題が變つて來て居るのであります、日本の民族は幾らあるか、そして之れだけの土地を有つて居るか、日本の本土をひとすれば、之れに對して英吉利は八割位になるのであつて、日本と英吉利とは大ざつばに言へば、本土は人口も土地も殆んど同じであるといつてよいのであります、更に亞米利加は二十倍の土地をもつて居る、人口は日本の七割多いのであるが土地は二十倍も有つて居るのであります、それから獨逸は土地は日本の一コンマの四倍であるから四割多いといふ事になつて居るのであります

す、そこで、殖民地を加へた結果は、其の關係がどうなるかといふに、餘程變つて來て、獨逸は四倍半の土地を有つて居る事になり、亞米利加は殖民地を加へると、日本の殖民地を加へたものに比較して見ると十三倍位になるのであります、それから英吉利に至つては、非常に廣大の殖民地を有つて居るからして日本の五十倍になるのであります、それだけの土地を一つの民族の勢力範圍にして居るのであります。此の様に比較して見ると、獨逸は先づ日本と同じと見てもよいが、英吉利と亞米利加とは、飛び離れて澤山の土地を占有して居るのであります、之れを一人當りにして見ますと、日本・英吉利・亞米利加の人が一人でどの位の土地をもつて居ることになるかといふことを調べて見ると、日本人一人で有つて居る所の土地をひとすると、亞米利加人は本土だけで言へば日本人の十二倍の土地をもつて居るのであります、亞米利加は日本の二十倍の土地があるが、人口が一コンマの七倍であるからしてさういふことになるのである、本國同志で言へば英吉利は日本と殆んど同じであるが、亞米利加は此の様



に廣い土地を一人でもつて居るといふ譯になるといふことは、吾々日本人の羨望の的になるのであります。殖民地を入れることになるに餘程違つた状態になるが、日本も亞米利加も殖民地を入れると、亞米利加一人の有する土地は、日本人一人の支配する土地の九倍に當り、また英吉利は一人當りが日本の八倍強に當るといふことになるのであります。斯ういふ状態からして見るといふと、日本人は實にみじめの状態にあるのであります。吾々日本人がもつて居る土地を一とすれば、之れに對して英米人は八倍九倍の土地をもつて居ることになります。併し、土地を澤山もつて居るといふても、コピの沙漠や禿山といふものであるならば、左程羨むにも當らないのであります。英米人の有つて居る所の土地は、そんな土地ではないのであるから全く羨望せざるを得ないのであります。そこで、土地の性質といふものについて比較して見ると、此の點に於いても日本は餘り良いこともないのであります。日本に於いては耕地が土地全体の一割三分に過ぎず、山林が五割八分で其の他に牧場其の他のもの

があるのであります。更に英吉利はどうかといふに、英吉利は農業國ではない、工業國であるから土地の工合も違ふのであります。吾々が英吉利に行つて汽車に乗つて旅行して見ても、牧場ばかりで耕地は至つて少いやうであるが、それでも耕地は土地全体の二割六分で、山林が四分、牧場が大部分で四割ある、日本は牧場が四分である、こゝにいふ工合に英吉利は農業國ではないが、それでも耕地は日本よりも豊富であります。殊に佛蘭西は六割は耕作地で、獨逸は四割八分は耕作地になつて居るのであります。亞米利加は土地が廣くて人が少いといふことであるが、それでも耕地は土地全体の二割八分で、牧場は二割二分といふ見當になつて居るのであります。斯ういふ工合に、國民の食糧を得べき所の耕作地が日本は少いのであります。一軒の農家の有つて居る土地を較べて見ると、日本を一とすれば、それに對して亞米利加は三十倍、英吉利は二十五倍、獨逸は五倍位を一軒で耕作地を有つて居るといふことになつて居るのであります。このように吾々は土地全体に對しても、殊に耕作地といふも

のについては哀むべき所の状態に在るのであります。汽車で旅行すると、山の中腹までも耕作をやつて居るといふやうに耕作が進んで居るが、それでも耕作地が土地全体に對して僅かの割合しかないのであります。新潟縣は日本で一流の農業國であるから何とも思はぬであらうが、吾々が中國や信州や甲州を通つて見て驚くのであるが、甲州から信州へ汽車に乗つて通つて見ると、僅かの間に四十幾つのトンネルを通るのであるが、私が英吉利に居つた時に、四十日の旅行の間に、僅かに一ヶ所のトンネルを通つただけであります。又シベリヤ鐵道を通つてもトンネルは何にもない、彼のウラル山でさへもトンネルはない、唯バイカル湖畔の迂回線で岬を縫ふ爲めにトンネルを穿つてあるが、其の他には何にもトンネルは無いのであるが、日本は山ばかりであるからして何處に行くにもトンネルを通らなければ行かれないのであります。それにも拘はらず、日本は昔から豊葦原瑞穂國などといつて居るが、沼が澤山あつてそこに葦などが生えて居るといふのであれば何も差支へがないが、穀物の生産豊富な國といふ

意味には受取れぬのであります。それ故に、日本が日本だけでやつて行く即ち自給自足といふ事は、過去はよかつたであらうが、將來は日本には之れが爲めに色々の大問題が起つて來るであらうと思ひます。日本の農産物は、さういふ譯でありまして、此の土地から出來る所のものを比較して見ると、尙ほ更日本はどんな状態にあるかといふことが解るのであります。即ち亞米利加の農産物は日本の十五六倍、獨逸も何倍かある、之れは研究者によつて違ふが、兎に角日本の何倍かになるのであります。林産物を比較して見ても、日本は山ばかりであるが、森林が割合に少いので、従つて林産物も少いのであります。中國などに行つて見ると、山は大抵禿山で、雨でも降ると水が出て困つて居る。それから牧畜は申し上げるまでもないが、亞米利加とか、英吉利とかのやうに牧畜の發達して居る所の國と、牛・馬・羊・豚といふやうの家畜の數を比較して見ると、唯馬の數だけは外國に對して劣つて居る程度も軽いが、食用になる牛とか、豚は非常の差で、外國は數十倍とか數百倍といふやうになつて居るのであ

つて、肉食をするといふことになる。甚だしく不足を感じるのであります。それから羊毛も大さう必要であつて、今日御臨みになつて居る所の方々は、皆被服に羊毛を用ひて居られるが、今日に於いては此島國からは得ることは出来ないのであります。又今日御集りの方は靴を穿いて居られるが、此の皮も日本からは得ることは出来ないのであります。生活改善といふことが唱へられて居るが、それが段々實行せられて來ると、色々困ることも多くあるのであります。次に、鑛産物であるが之れも日本は貧弱なのであつて、石炭が相當に出るとか、鐵が相應にあるとかいふて居るが、之れも僅かなものであります。石炭は我國では一ケ年に約二千萬噸出るが、英吉利は三億噸、亞米利加は六億噸、獨逸は二億八千萬噸位出るのであります。さういふ工合であるからして之れも三十分の一とか、十何分の一といふことであつて誠に哀れの情態であります。石炭は燃料として、工業用として甚大なる需用のあるものであるが、日本は相當に出るとしても、先進國に比較して見ると非常に劣つて居るのであります。其の他

の鐵であるが、之れは日本は僅か數十萬噸であるのに、英吉利や亞米利加・獨逸は數千萬噸を産する。全く問題にならぬのであります。銅は日本の特産物になつて居るが、之れも亞米利加が世界第一で、それから墨其西哥・加奈陀で日本は第四位である。日本は特産物が多いといふのであるが、亞米利加の十二分の一位であります。斯ういふやうの関係で日本は土地も狭い上に、天産物も豊かではないのであります。唯茲に幸の一として救はれて居るものは漁業であります。日本は四面海に圍まれて居つて、魚族も豊富であるといふことからして、漁業は英吉利や亞米利加に匹敵すべき發達をして居るのであります。其の産額を見ると英吉利の半分位であるが、亞米利加は殆んど同じ位であります。我國は人口が多いが家畜の少いに拘らず、相應に肉食をすることの出來たといふことは、全く此の水産業の賜であつたのであります。近來亞米利加も、魚食がよいといふので大いに魚食を奨励をして居るといふことであります。日本は其の澤山の漁獲物によつて自分達が肉食をすることが出來るといふことばかりで

はなくして、貿易の上から見ても漁業は頗る重要な位置にあるのであります。日本は日露戦争の結果として、樺太の南半を領分とし、また露領沿海洲に於いても日本人は移り住んで漁業をやる事が出来るやうになつて居るのであります。此の際、日本では水産業を大いに振興させて、吾々に重要な食物を十分に供給し、また支那や米國や其の他の國に輸出をするやうにしたいのであります。それには從來は保存するといふことがよく行かなかつた、漁つて來ると直ぐに食べるといふ古來からの習慣が影響して居るが爲めであらうと思ひますが、それが保存が上手に出来るといふことになると、外國に輸出することも容易になるからして、其の事業は非常に發達して來て、外國にも多額の輸出をすることが出来るやうになるのであります。

更に工業の方面は、どんな工合であるかと申しますと、日本は近來農業國からして工業國に進んで來たといふて居る人がありますが、まださうではないのであります。て、農業に従事して居る人が、工業に従事して居る人よりも非常に多いのであります。

て、工業の方面はまだ工業國といはれる程に發達して居らぬのであります。そこで、日本の工業の中では何が一番盛であるかといふに、紡績即ち綿糸や生糸の紡績工業といふものが一番發達して居るのであつて、日本は之れより外には是といふものもないのであります。此の一番發達して居るといはれて居る紡績業全体をもつていつて、英吉利と比較して見ると英吉利の二十分の一にも當つて居らぬ。日本全体の鍾數は二百五十萬鍾になつて居るが、吾々が英吉利に行つてマンチエスターなどに行つて見ると、町が皆一つの紡績會社のやうで、一つの町で千五百萬鍾もあるのであります。是等の町に行つて見ると、吾々は日本が工業國だなどといはれぬことが解るのであります。吾々は英吉利は下り坂であるなどといつて居る人を見ますが、英吉利の織維紡績工業だけを見ても下り坂どころではない、實に盛なことが解るのであります。さて、日本の紡績工業は順位からいつたら何番位になるかといふと、世界中で八番位であつて、鍾數を申しても印度の半分位にしか當らぬのであるからして、之れは世界

に對して誇るべき産業であるといふことは出来ないであります、日本で一番盛んである工業さへも其の通りであるから他は推して知るべきであります、尤も日本は夜業をやつて機械を一日に多く動かして居るからして、錘数は少くとも生産額は印度よりも多いのでありますが、若し之れを普通に英吉利のやうに動かして居るといふことになると、印度よりも劣るのであります、生産能力から見ると英吉利の二十分の一に満たないといふことになつて居るのであります。生糸だけは世界第一であつて、實は支那よりも産額は少いのであるが、世界に賣り出す高は日本が第一である、日本は此の糸を賣つた金によつて、漸く綿とか鐵とかを買ふ所の金を間に合はして居るのであります、鐵を買ふ事は年々百二十萬噸も買はなければならぬ、従つて鐵が少いといふことが影響して機械工業が發達して居らぬといふことは仕方のないことであります、工場の数を見てても、工場全体の六割が纖維紡績工場で、機械工業の方は一割、化學工業の方が一割といふことになつて、纖維工業の方が非常に多いことが解るのであります。

ります。

次ぎに、生産業に對して貿易といふものも國民の資力を増すことになるのであります。勿論、自分の國で出来るものを外國に賣り込むといふことも必要であるが、又東から買つて來て西に賣り、西から買つて來て東に賣るといふことも必要のことでもあります。英吉利は、其の方面に於てあのやうに發達をしたのである、また西班牙なども、其の方面に於て非常に活動して東洋に來たり、南米を廻つたりしたのであります、日本も早くから活動して南米位は廻つてもよかつたであらうが、幸か、不幸か、三百年の鎖國の爲めに、當然進歩すべかりしものを進歩せずして居つたといふ事は吾々の遺憾とする所であつて、吾々は出て行く先きを皆塞がれて貿易額は僅かに英吉利の十分の一といふ状態であります。併し乍ら、近年日本の貿易は大いに發達して來たのでありまして、將來を申せば、日本の貿易は頗る有望であつて、日本は世界の最も多數の人口の居住する國々の中心に居るのであつて、此の點に於ては日本は英吉利以

上にやる事が出来るのであります、即ち亞米利加・支那・濠洲・南洋といふものを周圍に控えて居るといふことは、日本の將來の貿易は大有望であるのであります、唯昔から鎖國になつて居つた爲めに、歐米諸國に後れたといふことは返す／＼も遺憾のことであります、英吉利が東洋に出て來たことは最近のことであつて、東印度會社の出來た以來の事であるが、それから印度なども非常に發展して來て、戰爭前に於いては印度のカルカッタ一港だけの貿易額でも、日本の貿易總額と殆んど同じであつたのであるが、それも僅か三十人か四十人の英吉利の商人が取扱つて居つたに過ぎないやうの譯であります、日本が立ち後れたからあらゆる方面で、みぢめの状態になつて居るのであるが、一方には國民の元氣がないといふ事になるのであります。次には、交通が大なる問題であります、日本は最初からして必要によつて海運を獎勵した結果として、此四十年間に大に發達して來た、今度の戰爭で更に一層の躍進をしたので、日本は唯今では世界第三の海運國となつて英吉利・亞米利加の次ぎになつて居るのであります。

ます、もう少し前即ち戰爭前には那威・和蘭といふものが日本の上位で、それよりも少し前には佛蘭西も上位であつたのであるが、現在に於いてはそれらの國を超えて世界第三位となつて居るのであります。然しながら、噸數を申せば日本は二百萬噸であるが、英吉利の船は少くとも二千萬噸はあらうが、英吉利は造らうと思ひば、一年に三百萬噸位造るのであつて、クラスゴウの如きは、クライド河畔には造船場が五十もあるといふことで、世界の船の五分の四は英吉利で出來るのであるから、日本の有つて居る船位は全部一年間で造ることが出来るのであります。

どうして斯ういふことを私が申上げるかといふに、吾々は世界の經濟上に於いて、どういふ立場に居るかといふことを申して、吾々は此の立場に在つて大に發奮しなければならぬといふことを申したい材料として申したのであります、殊に以上申述べました所から見て、どういふ所に努力をしなければならぬかといふことは既に御諒察のことと思ひますが、吾々が今後特に努力をしなければならぬ所のは工業であり

ますが、政府が理化學研究所を建てるといふことになつたのも、日本には學術的の根柢が浅いからして、研究して工業の發展を圖らなければならぬといふ趣旨なのであります。唯貿易だけは、其の状態は先程も申したやうに、地位上からは將來有利の立場に居るのであります、殊に支那貿易は最も有望のものであります。それから南洋とか、南米とかいふやうの所は、日本人が將來大いに發展しなければならぬ所でありま、幸ひ日本は海運が比較的に發達して居るのであるからして、此の海運力を利用して大いに發展しなければならぬのであります。それと共に土地の不足といふことも問題になつて來る、此の土地の問題は、日本人は將來大いに注目しなければならぬ問題であります。それと同様に食糧品のことも大なる問題であります。文部省も此等の點に大いに注目して新に實業科目の中に經濟のことを加へたといふことは、斯ういふ點に注意を拂つたからであらうと思ひます。唯日本人が生活をして行く上に於て、米の産額を増さなければならぬ、一ヶ年の産額五千萬石であつたのが、六千三百萬石にな

つた、更に改良して増收をしなければならぬといふて居るが、それも甚だ必要のことではあるが、日本人は年々六十萬人づゝ殖えて行くのでありまして、如何に耕作法を改良して米の増收を圖つても、或はまた開墾助成法といふものを實施して耕作地を殖やしても、食糧は餘るやうのことは全然ないから安心して居ることは出來ないのであります。殊に食糧品ばかりではない、まだ足らぬものが澤山ある、即ち外國からして綿を買ふ、鐵を買ふといふやうに澤山のものを買つて來なければならぬのであります、之れが資金として今日、日本が是等を買ふ所の力に堪え得る所以は何が爲めかといふに、生糸を産出するからである、外には綿を買つて來て勞力を加へて賣るといふ唯勞力を賣るといふ事である、それも其の勞力を賣る所の紡績業は、英吉利のマンチエスターの一つの町よりも少いといふのであります、また貿易をやる海運の方面に、勞力を使つて金を外國から取る、此の様にして日本が外國から買つて來なければならぬ澤山のものに對する資金を得て居るのであります、それにしても日本の人口が年

々殖えて行くのであるからして、八千萬となり、一億となるのもそんなに遠い將來の事ではなからうと思ひますが、それに對してどうしたらよいかといふに、そこに吾々の苦痛が生じて來るのであります、兼々日本でやつて居る所の移民・殖民といふことをやるより仕方がない、之れを救ふの道は日本の人を外國の人の少い所に移すより外に方法がないのであります、或はまた原料を安心して買ふことの出來るやうにしなければならぬのであります、澤山の人が出て行くやうにするには出る人に安心して行けるようにするより別によい方法はないのであります、出て行つても安心して事業を執ることが出來、安心して耕作をすることが出來るといふやうにすることが最も必要のことです。此の移民のことについては、政府に於いても努力をして居るのであるが、年々僅か四・五萬人さへ出て行かないのであります、英吉利や伊太利は仲々外國に行く人が多いのであつて、英吉利は年々二十萬、伊太利は年々六十萬人も出て行くが、日本は甚だ少いのであります、それでも此の少數の日本人が出て行くこと、あ

ちらでもこちらでも之を排斥する、そして今頃來るやつは侵入者である油斷がならぬといふて排斥して居るのである、其のくせ、それ等の土地は今から數十年前に彼等が占領した土地である、然るに今頃來るやつは侵入者であるといつて、今から五十年も前とか、百年も前に來た自分達は侵入者ではないといふやうの言ひ振りをして居るのであります。獨逸は日本より人口も土地も少しく多いだけで大した違ひがないが、周りに英吉利・佛蘭西等の國があつて、早くから開けて居つた爲めに頗る贅澤の生活をして居るから、其の中に狭つた獨逸は是等の國々と似たやうの生活をして行かなければならぬ、唯それだけではない、教育も同じ様にして行かなければならぬ、軍備も負けぬやうにして行かなければならぬ、又文化生活も彼等と同じ様にした、それから其の様の施設をするには金がある、其の金を得るには貿易も盛んにしなければならぬ、人を外國に移して有利の所で儲けさせなければならぬといふことは無理もないことである。併し乍ら、海外の富源は既に英吉利やなどに占められて居るからして、何



處にも出ることが出来ない、仕方がないから中央亞細亞の方面に出やうとした、外に仕方のなかつた爲めでもあらうが、其の方針が間違つて居つたといはれて、やれ軍國主義だのなごゝ外の國々から悪く言はれて遂にあのやうの惨めの目に逢つて仕舞つたのでありますが、今日の日本は四十年前の獨逸に非常によく似て居るのであります。獨逸は國內に産する小麥・大麥や馬鈴薯、それから牛・豚まで獨逸國民を養ふには何程足らぬかといふことを計算して、それから年々人口がどれ位宛殖え、食糧が何年間にどれ位増すことが出来るかといふことを詳細に計算して、食糧に對して人口はどれ位餘るかを調べて、其の年々どれ位の人口が餘るからしてどれ位宛殖民をしなければならぬといふことを計畫してやつたのであります、即ち内地のこのみならず、殖民地のことをも種々と調べてやつていつたのであります、日本もさういふ方針を立て居るかどうかといふことは解りませぬが、吾々が今日のやうの状態で、何日まで哀れの状態の生活をして居るといふことは、茲に社會主義の思想も起きて來ること

になるのであります、彼の社會主義が獨逸に於て組織的に一番先きに起きて來たといふ事も、獨逸が前申したやうの國情であつたからであります、食糧も十分で、生活も樂で、鐵も幾らもある、石炭も幾らもあるといふことであると、社會主義も其の時代に左右されて起るやうのこともないであらうが、獨逸のやうの國では社會主義の發達するのも當然のことであらうと思ひます、日本も狭い土地に澤山の人が居つて、その上天産は豊かでないといふのであるからして、一方には殖民地政策によつて此の苦境を脱せんければならぬといふものもあると同時に、他の方に於いては分配をどうかしなければならぬといふ問題も生じて來ることになるのであります、之れは即ち社會主義であります、それ故に、殖民地政策と社會主義とは腹違ひの兄弟であつて、少しく力のある所のものは、殖民地政策といふことになつて土地を得たいとか、食糧を得たいとかいふことになるが、力の弱い方のものは、分配の仕方が悪いといふことで其の方法を改めなければならぬ、經濟組織を變へなければならぬと主張することになつ

て來るのであります、外に荒れて一向手をつけない土地があるのに、それを構はないで居つて、一方の狭い土地に澤山の人が集つて、其の土地を酷使して居るといふことは、餘りに不經濟のことでありまして、例へば西比利亞とか、南洋といふやうの所には土地が明いて居つて、今迄に何千年も土地を明けて居るといふことは、産物が一年に一度づゝ出來るとしても、今迄に何千回も取らなかつたといふことになつて、非常なる不經濟であるのであります、さういふ所を利用するといふことは頗る大切なことであります、然るにさういふ民族の國は日本のみならず、外國人の入つて來ることを喜ばないのでありまして、外の國の民族と一所に利用することが彼我の幸福であるのであるが、只今はさういふ譯になつて居らないのであります、此の點については御話したいことが澤山あるのであります、日本の重要な政策になるからして深く立入つた所のごときは申しませぬが、今後數年の中には吾々も餘程考へなければならぬ所の問題であるといふことを御考へ置きを願ひたいのであります。そこで、日本の民族が

生きるか、生きられないかといふ場合に立ち到つたならば、餘程考へなければならぬと思ひます、數十年前に他の民族が取つた所の土地に對して、一方には年々數十萬の人間が増加して來て、狭い土地の中で芋を洗ふやうな苦しみをして居りながら、尙ほ遠慮をして苦んで居るといふことはなからうと思ひます、日本が數十年間の努力の結果として漸く大陸に足止りを得たのは、日本は戰爭の結果として足止りを作つたのである、日本は好戰國である、侵略者であるといつてお前達はそんな所に入つて來るのは贅澤であるといふて居る者に對して、吾々はおとなしくして居ることが出来るでありませんか、自分達は日本人よりも數十倍の廣大な土地を有つて居りながら、吾々が狭い土地に芋を洗ふやうにして居るのを見て、お前達はそれで我慢して居れといふことは、果して我々はそれで我慢が出来るでありませんか、之れは吾々としても大いに考ふべき問題であらうと思ひます、此の點に就きましては、餘り立ち入つたことは申すことが出來ませぬが、之れに對して經濟政策或は外交政策に於いては、相當の考

慮をして居ることでありませうが、色々議論もありませうし、種々の問題と關聯して頗る複雑のことでありまして、今日の御集りの方は皆相當の知識階級の方でありますから、詳しくは申しませぬが、以上簡單に私の感想を申した次第であります。唯最後に補習教育のことについて申したいのでありますが、大分補習教育には關係のないやうのことを申しましたが、これから其の點について一言申したいと思ひます。すべて教育をするには其の人がどういふ生活をして居るかといふことを知つて居ることが必要であるが、他方には吾々國民としてどういふ覺悟をもつて居らなければならぬかといふことを知つて居ることが必要であります、即ち一方には人間としての人格を養ふと共に、他方には國民としての人格を作るといふことが必要でありまして、色々な知識技能を養ふと共に、其の間に何等かの精神のあることが必要のことでもあります、實業補習教育に於いても知識を與へるとか、技術を授けるといふことも必要であつて、經濟法制の知識を與へるとか、趣味をもたせるとか、實際に役立つやうに教へて行く

とかいふことも必要のことではありますが、他の一方に於いて其の方面ばかり目をつけて、其の方にはばかり没頭して周圍のことを全く忘れて居るといふことであつて、近眼者流にばかりなつてしまつてはいかぬのでありまして、まだ他にも考ふべきものがあるのであります、即ち社會とか、國民經濟とかいふことを考ふべきことであるといふのが、今回の補習教育規定改正の趣旨になつて居るのでありまして、私共は適當のことであらうと思つて居るのであります、尙ほ修身の内容も變つて來たのでありまして、勿論、忠孝といふことも大切のことではあるが、都會のものも、田舎のものも、同様に國民として、公民として生活して行くのであるからして、其等の國民・公民としての教育を施して行くことになつたのでありまして、趣旨としては私共も賛成であります、從來の個人的の道德でなくて公衆的精神を吹き込むといふことが大切であらうと思ひます、現今無暗に高等の教育、大學・専門の教育を受けたものが、學校を出てから帳面などをつけさせられて、何だ帳面などばかりつけさせられてと自分はそ

んなことはせぬで、重役にでもなりたがつて居るやうの工合であるが、日本は産業がまだ發達して居らぬからして、會社なども従つて少ないからしてさう澤山に重役は必要がないのでありまして、勢、帳面をつける所の仕事もしなければならぬのであります、これでは皆が非常に澤山の學費を拂つて、さて學校を出ると帳面つけをして居るやうであつては、家庭でも心外であらうし、國家としても心外であるが仕方がないのであります、そこで、大抵はあんなつまらぬ所の商店などに入つて、帳面つけをして居るのではつまらぬといふので、何處にも入らぬで何時までも下宿屋にゴロ／＼して遊んで居るものが多いのであります、十數年も東京に来て居つても、何一つ仕事もせぬで唯遊ぶことを覺えたといふものもありません、頭はあるが仕事が出来ないで、唯放蕩を覺えたといふものが、東京には澤山居るのでありまして之れは唯何も方針なしに學校に入りさへすればよいといふやうの考へで、また親はいつでも子供がしたいといふからとて、何等の方針なしに子供の言ふがまゝにして居るからして此の様

の結果を來すのでありまして、此のやうに方針を誤つた結果は、一家としてもまた一國としても非常なる損失になるのでありまして、日本は自然の恩恵が不十分であるのに、斯ういふ社會になつて居ることは、茲に不平も生じて來るのであります、然るに實業補習教育は此の點に於いては非常によいものであつて、下について實務に従事するものを作るのでありまして、我國でも勿論力を入れて奨勵して居る所のものであります、併し乍ら、先き程も申したやうに、日本には多くの事業がないからして、力のあるものは十分に働く場所のないといふやうのこともないが、力のないものは働く場所がない、勢ひ海外に出なければならぬのであるが、併し、一足飛びに郷里から直ぐに海外に出るものは少いのであります、二男や三男といふやうのものは、田舎からして先づ都會に出るが仲々仕事がない、そこで、都會にも居られないで心太式にぞろ／＼とをされて海外に出て行くのであります、廣島縣から澤山ハワイに行つて居るがそれは大抵一遍は都會に出る、都會に出ても食へないからして今度は外國に出るといふ

やうの順をふんで居るのであります、併し、それでは甚だまづいのであつて、今後は是非共、計畫を立て、團体的に出て行くといふことにして貰ひたいのであります、今迄のやうに外國に出るものは皆國內で食ひ外れたものとか、または無頼者といふやうのものが外國に出て行くことに相場が定つて居たのであります、外の國もさうであるが、さういふものが出て行くからして亞米利加とか、支那・朝鮮などに歓迎せられないのも無理のないことであります、さういふものであるからして、外國に行つても人のかすりをとるとか何とか人の悪いことをして嫌はれて居るのであります、それ故、今後は計畫を立てて出て行つて一定の職業に十分成功するやうにしなければなりません、それには、其の職業に對する所の能力を十分に養つて置かなければならぬ、それには、實際的の能力を授けてやらなければならぬのであります、此の方面からして實業補習教育に於いては、さういふ事を實際的の立場からして授けて行かなければならぬが、其の外にもう一つ國民經濟の方面からも授けて戴きたいことであります、實業

補習教育といふものに對して、文部省が之れが改善振興に着眼せられて大に宣傳をせられて居るといふことは誠に結構なことであり、文部省の御調べによると、新潟縣は實業補習學校数は全國で最も多いといふことであります、數から申すと新潟縣は日本で第一番のやうであります、それから、長野縣も澤山のやうで、石川・富山の二縣は數は少いやうであるが、其の經營には仲々立派なものがあるといふことであります、之れは誠に喜ばしいことであります、將來益々振興せられるやうに希望する次第であります。次に、私が皆さんに御考へ置きを願ひたいと思ひます事は、現在農業とか、商業の補習學校は多いのであります、水産の補習學校といふものゝ分量が少ないといふ事であり、新潟縣などは、日本屈指の農業の盛んな縣であるからして、農業補習學校の多いのも無理はありませんが、一般に水産の補習學校が少いのであります、全國の補習學校の數を統計で見ると、農業補習學校が一萬三千もあるが、工業補習學校が千五百、商業補習學校が千、水産補習學校が六百といふ事で、商工・

水産の補習學校は至つて少ないのであります、將來我國は工業・商業・貿易・水産といふものに向つて發展して行かなければならぬと思ひますからして、獨り農業の方面のみならず、水産といふ方面にも力を入れて貰ひたいのであります、長野縣は四百四十校の補習學校があるにも拘はらず、此の統計には工業補習學校がないが、漏れたのであるかも知れぬが、長野縣のやうに製糸工業の發達して居る所に、工業の補習學校の無いといふことは遺憾のことです、水産の事からして沿海洲、樺太の事も多少申したいのであるが長くなるから申しませぬ、兎に角日本は水産額が亞米利加よりも少ないのであるからして大いに殖さなければならぬのであります、それには、水産教育をもつと盛にしなければなりません、此の統計を見ると水産補習學校の数は福井縣が北陸の方では一番奮發をして居つて三十三校、石川縣が六校、富山縣が一校、新潟縣が十校といふことになり、長崎縣は場所柄にもよりますが百餘りもあるものであります、海岸は海の關係で漁獲高も少ないのであるが、將來は遠洋に出ることが

大切でありまして、此の點に於いては北陸道は適當の地位であらうと思ひます、それで此の水産補習學校の方も、商・工業の補習學校と合せて御考慮を願ひたいと思ひます。日本の教育費は仲々澤山であるから、随分町村も難儀をして居るのであらうが、補習教育の方も盛んにして貰ひたいのであります、最近の調べによると、補習學校の費用が新潟縣が拾萬圓、長野縣四拾五萬圓、石川縣九萬圓、富山縣四萬圓といふ事になつて居るが、此の經費も出來得る限り増額して貰ひたいといふことを當局に御願ひいたします、併し、町村も収入が少ないのであります、此の點に於いては仲々苦しいのであります、日本の現状は、此の地方税の改正をしなければならぬといふことで、其の調査委員を設けてやつて居るので一昨年からの問題であります、地租と營業税とを地方税に移さなければならぬといふのであります、大藏省などでも、此の點については大いに研究して居るのであります、未だ其の運びに到らぬのであります、早く是等財政方面の改革が出來て、日本の教育、補習教育が益々振興することを希望

するのであります。(拍手)

實業補習教育に於ける公民教育

文部書記官 關屋龍吉

### 實業補習教育に於ける公民教育

私の御話いたしますのは、實業補習教育に於ける公民教育といふのであります。既に昨日は、文部省の諮問案として協議に上りまして、補習教育の實際に御従事になつて居らるゝ方からして、有益なる而かも感激に満ちた御話がありまして、自分としては非常に得る所があつたのであります、又それを御聞きになつた皆さんに於かれても定めて御参考になることが多かつたことであらうと思ひます。それで私が是れ以上御話をいたすことは、蛇足を添へるやうの嫌ひがありますが、今度の講演會を機會に私も一言御話を申したいと思ひます。併し乍ら、私などに素より新しい學說だの、面白い理論などを御話するといふことは出來ないのであります、唯私は一人の教員とし



ての経験を御話をして、其の教育に御経験のある所の皆さんと共に研究して見たいと思ふに過ぎません、私も此の六七年の間、東京高等工業学校の補習學校に於きまして、公民科を受持つて居つたといふことからして、今日茲に御話をするやうになつたのでありますから其の御積りで御聞きを願ひたいのであります。又昨日、木村書記官からして御話がありましたやうに、只今文部省では、公民教育の教授資料の蒐集や、學科課程の選定といふことについて、實業學務局に於いて着手して居らるゝのであります、私の今日御話をすることは、それと相違を來すやうのことがあるかも知れませぬが、それと私の御話とは關係がないのでありまして、私の今日御話をすることは、文部省の意見でもなんでもない私個人の意見であります、其の意味で唯今申すやうに、自分の経験からして申しまして、直接此の教育に御從事の御方々に對し、多少でも御参考になりますならば私の幸であります。

昨日、山崎局長からも御話がありました通り、昨年末に實業補習學校規程が改正に

なりましたが、明治三十五年に於いて實業補習學校規程が改正になつて以來、昨年までは何等の改正がなかつたのであります、明治三十五年の改正によつて、我が國では實業補習學校の目的は「職業に従事し又は従事せんとするものに簡易なる方法により其の職業に要する知識技能を授けると同時に普通教育の補習を爲すを以て目的とす」といふことになつて居る、即ち實業補習學校の目的は實業教育及び普通教育の補習といふことが二大眼目になつて居るのであります。先程も澤村博士が言はれたやうに、實業の學科は先生が得難いのだ、又やるとしても時間が少いといふことで、農村では振はぬといふことであるが、都會でも矢張り振はぬのでありまして、それで實業補習學校といへば普通教育の補習だけをやつて居るやうの實情を呈して居つたのであります、こんな有様であるから、公民教育といふことは、全く閑却されて居つたのであります、明治四十四年に文部省で出しました各府縣選定實業補習學校施設狀況調査報告といふものを見ると、代表的の學校を選んであるのであります、其の補習

學校の中に公民教育をやつて居るものは一校も見當らぬのであります、併し、此の選んだ所の學校が良い學校であつて、其の外には良い學校は一つも無いといふのではないのであります、兎に角此の報告に出て居る學校では、公民教育といふ事は、全然やつて居らぬのであります、或は修身などに結び付けて外の道徳を説く傍、多少公民教育もやつたものはあつたであらうが、特別の學科としてやつて居つた學校はないのであります、唯大阪の育英補習學校で、修身科の中で公民教育を課し、國家の組織だとか、國民經濟といふやうの事を大分やつて居るのがあつただけであります、今度實業補習學校の規程が改正になつて、此の公民教育をすべきことが規程の中に入れられたのであります、それで明治四十四年の頃には、公民教育といふものは、一向注意をせられて居らなかつたのであります、大正五六年頃からして、公民教育といふものが識者の間に唱導されて來たのであります、そして實業補習教育の先輩の方々の努力によりまして、之れが必要が段々一般に認められるやうになつて、日本でもさうい

ふ内容を含んで居る學科を教授して居る學校が、段々増して來たやうであります、其の中で一番、目に立つたのは高等工業學校の補習學校の組織が、大正六年に改正になりました、公民教育を教へる學科が加へられたのであります、私が最初からそれを受持つといふことになつたのであります、模範學校としてやつて居るので一寸目について此の公民教育の上に於いて一時期を劃したのであります、かれこれして大正八年に文部省から、實業補習學校に關する施設報告といふものが出ましたが、此報告書を見ると、時勢の反應が明に見えるのであつて、其の中に公民教育といふことが入つて來て居るのであります、今日の組織に近い所のものになつたのであります、左様のことからして大正九年に文部省が實業補習學校規程を改正するに當りまして、此の公民教育を爲すべきことを其の規程の中に加へるやうになつたのであります、それで實業補習學校規程中の公民教育のことにつきましては、昨日も出ましたからして、それをまた茲に繰返すのはなんであります、話の順序として讀んで見ると、第一條

に「實業補習學校は小學校の教科を卒へ職業に従事するものに對し職業に關する知識技能を授くると共に國民生活に須要なる教育をなすを以て本旨とす」とあつて、「國民生活に須要なる教育」といふ新しい文字が出て居るのであるが、それから第八條には「實業補習學校に於いては適當なる學科目に於いて法制上の知識其他國民公民として心得べき事項を授け又經濟觀念の養成に力むるを要す」とあつて、此の度の改正規程には斯ういふ二ヶ條が入つて居るのでありまして、此の點に於いて大分重要なものとなつて居るのであります、即ち今度の改正令に於いては、實業補習學校の目的は職業に關する知識技能を授くること、普通學の補習をすること、其の外に此の公民教育といふことが規程の中に加へられて居るのでありますが、後期のものにあつては、職業教育と、公民教育とは實業補習學校の二大眼目となつて居るのでありまして、如何に公民教育といふものが重んぜられて居るかど解るのであります、私は外國のことなどはよく存じませぬが、獨逸で補習教育の最も盛んなパウリヤ

に於ける補習教育が發達して來た跡を見ると、丁度日本の状態と頗る似て居るのであります、今度日本で改正になつた補習學校の規程と同じ様な改正が今から二十餘年前にやつて居るのであります、千八百八十三年にパウリヤに於いては、農業補習學校の規程が改正になつたが、それによると農業補習學校といふものは、小學校を出たものものに對して小學校の教育を補習する所であるからして、基礎學科を十分にやらなければならぬといふので、地理・歴史・讀書・算術といふやうな基礎的の學科が重要なものであつた、それでやつて行つた所が、どうも實際はうまく行かぬ、それは補習學校は小學校の延長であるといふことで、農業教育をやらなかつたからであります、それで千八百九十五年になつて丁度日本で今度改正になつたやうに、補習學校では職業に關する學科を中心として、之れに公民教育をしなければならぬといふことになつたのでありまして、其の結果、補習教育は段々盛になつて來まして、獨逸の實業補習教育は他國の模範といはれるやうになつたのであります、此の様に獨逸に於いても、

今から二十餘年前に日本と同じ道を踏んで居るのであります、小學校教育の目的は私  
 が改めて申すまでもありませんが、小學校の兒童は、社會とは何等の接觸を持たぬの  
 でありまして、勿論、小學校の兒童も社會の教育を受けては居りますが、それは間接  
 であつて、直接には兒童の環境は、學校と家庭とであつて、社會とは直接の關係は何  
 にもないのであります、唯他日社會に出てからそれに適應する所の知識を授け、また  
 身体を作るといふことになるのであります、素より小學校に於いても公民教育は不必  
 要であるといふのではありませぬから、この道か幾分の公民教育をして居るのであり  
 ます、即ち小學校の讀本中にも公民教育の教材が載つてあるのであります、即ち尋常  
 小學校讀本中には分業・物の價・平和なる村・貨幣・貯金・大國民の品格・自治の精神・  
 帝國議會等があり、高等小學校讀本には資本・會社・神社・租税・保險・産業組合・世  
 界の航路・關稅・法律命令といふ様な記事があり、三學年には憲法・外交・國家の豫  
 算・經濟の原則といふやうの事まで擧げてありますが、之れは國語教育の教材の一部

に擧げてあることであつて、公民教育其のものゝ目的でやるのではないのであります  
 が、小學校に於いては、兎に角之れと修身書で授けるものとを合して小學校に於ける  
 公民教育の目的を達して居るのであります、實業補習學校に於いては、全然小學校  
 と變つて居るのであります、生徒は皆職業に従事して居るのであるか、或は職業に  
 従事して居らぬとしても既に社會に出て居るものであつて、一應の社會教育は受けて  
 居るものでありますから、之れに對して如何なる教育をするかといふことは、小學校  
 の教育とは全然違はなければならぬことは明かなる事實であります、實業補習學校の  
 生徒は、此の様に社會と直接の接觸をもつて居るのであるからして、之れらの生徒に  
 對して、社會の一員として、社會の公民として心得べき事項を十分に授け、又經濟觀  
 念・法制上の知識なども適確なる所のものを與へるといふことは甚だ必要なることで  
 あるばかりではなく、また此の時代が一番感受性が強いからして教へられたことが入  
 り易いのであります、普通の中學校では、法制經濟として教へて居るものが多いの

であります。この様な秩序的の學校では、或は之れ迄の様な教授法でよいかも知れませんが、然し、補習學校に於いては、さういふことではいかぬでありまして、補習學校の生徒には、もつと實際的に法制經濟の觀念をつぎ込む必要があります。そこで私は實業補習教育に於ける公民教育について、今日は三つに分けて御話をして見たいと思ひます、第一は此の公民教育の意義であります。昨日も色々議論がありました。今日はさういふ御答申がありますか、私の御話することと御答申とか同じか違ふか解りませぬが、先づ最初に公民教育の意義について申しまして、第二には公民教育の内容であつて、さういふことを、如何なることを教へるかといふことを申し、最後に時間があつたら、第三として公民教育の教授法はさういふやうにするかといふことを申し上げまして、それらのことに對して皆さんの御話をも承りたいと思ひます、それで今日は此の三點について少しく私の卑見を述べて見たいのでありますが、第一の公民教育の意義であります。公民教育とは何であるかといふに、昨日も色々説がまち

／＼でありましたやうに、或る方は、公民教育とは自治制度のことを教へるので自治教育と同一であるとし、或る人は、法制の教育と同様に見て居る人もあつて、人によつては廣くも狭くも解釋をして居るのでありますが、此の問題は第二の内容のことと關聯して居るからして、第二に行つてから申したら解らうと思ひますから、暫く御預りにして置きます、併し乍ら、公民教育といふことについての大体の觀念は、誰れにもあるであらうと思ひます、公民教育と外の縁の遠い所の問題とを取り違へるものはなからうと思ひます、此の公民教育を表はす言葉として、立憲思想の養成といふことがあるが、之れについては、先年文部省からして通牒などが出て、紀元節等には憲法發布の上諭を奉讀し、尙ほそれについて立憲政体の正確なる觀念を得しむるやうに達せられたことがあるが、之れなどからして一方には、政黨政治の宣傳などの上に於て盛んに立憲思想の養成といふことが唱導せられて來て、學校に於いては立憲思想を養成する爲めに日本の國体とか、議會の意義とか、政黨の觀念を知らしめるのが必要で

あるとされたのであります、今も教育者以外では、公民教育といはないで、立憲思想の養成といふ言葉を使つて居る方があるのであります、一方に公民教育といふことを立憲思想の養成と考へて居る人があるが、他方には自治民育と解して居る方があるのであります、公民教育といふことは地方の自治民育を理解させることであるとして、村はどうして出来て居るか、村長はどうするものであるかを教へるのが公民教育であるを解釋して居るのであります、之れは餘程有力の方の中に斯ういふ説を言はれて居る人があるやうであります、先きに獨逸の例を引いたからして、序にもう一つ例にとりませんが、獨逸は何につけても吾々の先生であるから一應は参考にどつてもよいと思ひます、獨逸のフュードグレーといふ人があるが、大分補習學校のことには熱心な伯爵であるが、此の人は公民教育とは何ぞやといふことは至極簡単に扱つて居るのであります、公民教育といふのは「法制經濟の智識を授けることである」といふて居りますが、成る程意義は至極簡單であります、其の授けるといふことが仲々至難の

ことであります、我が國の或學者の説では「公民教育は教授及訓練を以つて青年をして立憲國の善良有爲なる公民たらしむる所の教育である」といふて居られる、之れは至極良いやうであるが、之れは國民教育と公民教育との區別が明確でなくて混同せられて居る嫌があるのであります、それから例の獨逸の補習學校の振興に大變功勞があつて、補習教育の神様といはれて居るケルシエンシユタイナーは公民教育の本旨を二つに分けて居つて、一つは國家的任務の理解で、もう一つは個人的能力の發達といふことにしてあつて、後者はこれを職業的の能力と、國家社會の一員としての人格を養ふことの二つに分けて居るのであります、之れによつて見れば、公民教育といふことは斯ういふやうになるだらうと思ひます、生徒をして國家社會の一員として、自己の職業に對する能力を發達せしめ、國家社會に對する適切なる觀念を得しむるといふことになるのであります、一体公民教育の目的とする所はケルシエンシユタイナーの言ふて居るやうに、自分に適切なる所の職業的能力を得しむると共に、國家社會に對す

る正確なる觀念を得しむるといふ事であつて、自分としては人格的に自己を向上し、國家に對しては奉公の務を全うする所のもので、是等に對して感激をもつてやつて行くといふことが、公民教育の大眼目であると思ひます、そして其の中には地方團體の一員としての心得を養ふといふことは、また此の大眼目の中に入るのであります、また近來我が國に浸潤して來て居る所の危険なる新思想に對抗する所の思想を養ふことも、また公民教育の目的であることは疑を容れない所であります、又經濟的の概念を與へる特殊の經濟のことは職業教育であるが、一般に經濟上の概念を授けることも、亦公民教育であらうと思ひます、それで私は公民教育については次のやうの定義を下して居るのであります、「公民教育は國家社會に對する道徳を背景として法制經濟に關する概括的知識を涵養し及び之れが訓練を施すことを以て目的とす」之れについて一言説明いたしたいと思ひます、まづ公民教育といふことは、只今も申したやうに、國家の組織目的といふことを正解して、併せて法制經濟の觀念を養ふのであ

ります、但し法制經濟の知識を養ふといふことは單に理屈を教へるのではありませぬ、そこで其の誤解を豫防する爲めに概括的知識といふことにしたのであります、公民教育に於ける法制經濟は何も詳しい所の知識を教へることはいらぬのであります、唯概括的の知識を與へるだけで澤山であると思ひます、師範學校や中學校にも法制經濟の學科がありますが、其の教授要旨には「法制經濟に關する事項につき國民の生活に必要な知識を得しむる」といふことになつて居るのであります、此の中にはさういふ中學校の出身の方もありませんが、さういふ方に實の所はよく御聞きを願ひたいのであります、今日の中學校などに於ける法制經濟の教授の實際を見るといふと、往々權利とか、義務とかの定義のやうのことにばかり偏して説いて居られる向もあるかに見受けられます、かくては少しも生徒の感興を引かぬのであります、法制經濟の時間になると、生徒が皆居眠をして居るといふことは故なきにあらずであります、補習學校の生徒に對して此のやうの教へ方をして居つては、尙ほ更駄目でありまして、權

利とはどういふことであるか、權利とは法に依り主張し得る意思の力にして、利益を其の内容とすといふやうの定義を一々下して、根本的の知識を授けることは、公民教育の目的ではないのでありまして、唯概括した所の知識を與へるのが、公民教育でありまして、それ以上は法制經濟に譲るべきであらふと思ひます、つまり公民教育である法制經濟は、理論を教へるのではなくて、實際的の知識を教へるのであります、それ故、國法といふ事を教へるにしても、法制科では國家の制定し又は認定した臣民行爲の規範といふのであるが、公民教育では國家の造つた所の規則であるとか、或は内容を少し話して解らせる位で澤山で、唯單に概念を授けて生徒をして凡てこんなものかとなづかせる事が出来れば結構なのであります、又經濟にした所が、どの教科書を見ても、生産・分配・交易・消費といふ四大部門に分けて書いてあるが、之れが經濟の學科の課程の組方であるが、公民教育に於いては若し時間が許せば固より之等の理論をも教へたいのであります、先以て事項別に日本の産業はどうか、之れを奨励す

る爲めにどういふ風の制度があるか、交通・運搬・通信とか或はまた産業組合とか銀行・會社といふやうに事項別に教へることがよい方法であつて、また効果も多いであらうと思ひます、之れは私の考へであるが、多分間違はなからうと思ひます、斯ういふやうにして知識を授けると共に、訓練を施すことが必要なのであります、殊に忘れてならぬことは、國家社會に對する道徳を背景として居ると云ふ點であります、個人道徳までもくるませるのが當然かも知れませぬが、公民教育といふのであるから、私は公民教育に於いては、公德を養成するのが大切であらうと思ひます、即ち國家社會に對しては、どういふ道徳を守らなければならぬかといふことを教へるのであります、個人道徳も無論大切ではあるが、國家社會に對する道徳即ち公德を背景としてやるのであります、背景と申す意味は如何なる事項を教へるにしても、道徳的の觀念を忘れぬといふことでありまして、國家といふことを説くにしても、國家の三要素といふことを説かなければならぬが、それについても吾々は國家に對して責任をもつて居る、



其の責任を十分に盡さなければ、國家は完全なる存立を保つて行くことが六ヶ敷いのである、若し國家がなかつたならば、吾々の日常生活はごうなつて行くであらうかといふやうのこゝからして、國家に對する道徳を説いて行くのであります、又自治制度を教へるにしても、自治制度は國家の重要なものであつて、丁度國家に對する町村は、人間の細胞のやうなものであつて、若し吾々人間を組立つて居る所の細胞がくづれたならば、人間は死んでしまふやうに、地方自治團體の盛衰は國家の存亡に關するこゝであるからして、吾々は地方自治團體の爲めに、大いに奉公をしなければならぬのであるといふやうに説くのであります、又經濟に於いて銀行の事を話す場合には、勤儉貯蓄のこゝは必ず説かねばなりません、公民教育に於いて經濟の話をする時に於いては、特に勤儉貯蓄の思想を鼓吹するこゝが必要であります、又産業組合の話に於いては、御互に多數組合員が協力互助の精神を忘れてはならぬと説くやうに、公民教育に於いては、國家社會に對する道徳即ち公德を背景として、其の知識を授け其の訓

練を施すといふこゝが大切のこゝであると思ふのであります。

序であるから、名稱のことを申しますと、公民教育の名稱は、随分まち／＼であるが、一つ二つ申して見ますれば、公民科・公民學・國民科・市民科などといふやうの名稱が色々に用ゐられて居るのであります、名稱などはごうでもよいやうであるが、公民學といふのは、公民教育はまだ一つのサイエンスではないのであるからして、公民學などといふと、何んだか子供にフロックコートを着せたやうの感じがします、名前は申しませぬが、公民學といふ名をつけて居る學校の教授を見ましたが、内容は至つて貧弱であつたやうであります、それから公民科といふのであるが、之れは最も普通の言葉であつて結構であります、此の公民科といふことについて注意していただきたいことは、公民科といふのは、地方の自治制だけを教へるのではなくて、自治制は公民科の一部分であるからして、公民教育と地方自治教育とを混同せぬやうに願ひたいのであります、現に此の混同して居る實例は澤山あるが、それでは公民教育の全

体ではないと思ひますから、さういふ誤解のないやうに願ひたいのであります、次ぎに、國民科といふ名稱も、教育會議の委員會などで使用されたことがあつて結構であるが、何だかまだ多少落付きがないやうであります、それから市民科といふのはバタ臭いやうで面白くないと思ひます、それで私は自分の吹聴をするやうであります、高等工業學校の補習學校で此科を置く際文部省で色々相談を致しました結果、國民心得といふことにして居るのでありますが、近頃國民心得といふ名稱を用ひてやつて居る學校もあるやうでありますから、御參考までに申して置きます。

第二に公民教育の内容であります、公民教育に於いては、如何なることを教へたらよいかといふことであります、これは第一の問題と關聯して居るのであります、中には單に國家の組織制度のみに付て説いて居る向もあり、又或は自治制のこのみを教へて居る向もありますが、先づ其の前に外國の例を申しますれば、此教育の先輩たる獨逸では、衛生並に國民心得とか衛生、國民處世心得といふて衛生の事迄詳しく

教へます、ベルリンの補習學校に於いては、三年制度であつて其の一年には學校に對する色々な心得を教へ、次ぎには職工として徒弟としての色々な心得を教へるが、それが濟むと社會の一員として心得べき事項を教へ、次に國家の一員として心得べき事項として、國家の組織、統治機關といふやうのことを教へるのであります、二年では衛生に關する所の事項で衛生・急救療法を教へるのであつて、河に溺れた時の手當といふやうのここまで實際の知識を授けるのであります、三年には職業に従事する一員としての心得であつて、雇主との關係とか、或は組合のことなどを教へ、家庭の心得としては、相續・遺言・扶養のこと、或は餘所との交際といふやうのここまで色々なことをやる、それに加へて役所の届書のやうなものまで教へて居るのであります、ミューンヘンのケルシエンシュタイナーのやつて居るのは、一年には修身をやつて、國民心得は二年から三年まで毎週一時間やつて居るのであります、そして實業發達の歴史を授けて居るが、それに付け加へて人間が共同生存を營む爲めに、組合とか、色々な

組織がいるといふことからして、次にさういふ組合を起した所の人々の實傳等を話します、それから第三には國家の組織を述べて、國民の權利義務の話をするのであります、尙ほ其他の教材に付ては時間がありませんから略しまして、次に、私の考へを申して見たいと思ひます、私は公民教育で教へる所の内容を四つに分けたいのであります、第一は國家思想の涵養、第二は自治精神の鼓吹、第三は經濟觀念の養成、第四は海外發展氣風の養成といふ四つであります、第一の國家思想の涵養であります、大戰以來、社會の思潮が變動をして來て、國家に對して色々の疑惑を與へて居るのであります、殊にロシアの崩壞以來といふものは、極端なる主義や主張といふものがやつて來たのであります、之を止めて入れないといふことは、丁度水の押し寄せて來るのを赤手で押し止めやうとするやうのものであつて、到底止めることは出來ないのであります、そこでさういふものに對して、感受性の強い所の青年をして、それらの極端な主義や思潮が入つて來ても、それに感染することなく、堅實なる國家觀念

に立脚して批判して行くだけの信念を養ふのであります、殊に日本の國体の尊嚴なる事の觀念を養ふといふ事が肝要の事であり、之について私は極端なる實例をもつて居るのであります、嘗て私は自分の教へて居る生徒から（多分高等科の生徒であらうと思ふが之は中學校の卒業生なども雜つて居るのであります）無名の手紙を受取つたのであります、披いて見ると其の文章も内容も餘程練れて居るが、其の中に書いて居る思想は實に極端なる所のものであつて、一寸こゝで御話もしにくい様な問題に對して、何故吾々に説いて聞かせないか、斯ういふ根本に觸れて説明して呉れぬやうでは、貴方の講義は聞く必要はありませんといふ意味のものであつたので、私も一驚を喫したのであります、それで其の次ぎの講義の時に二時間も話したのであります、實に驚き入つた思想を有つて居るのであります、斯ういふ情ないものが居るやうでは、公民教育をやるには、しつかり腹帶を締めてかゝらなければ徹底せぬと思ひます、それで此の國家觀念を涵養するについては、國家と個人との關係を十分

に説いて、國家の成立や立法・司法・行政の各方面に亘つて説く時に、斷えず特に國家思想養成といふことに力を用ひなければならぬと思ひます、第二に自治精神の鼓吹であるが、自治制が布かれて既に三十年になつて居るが、未だ之れが徹底をして居らぬのであります、此の點も公民教育に於いては、十分に鼓吹しなければならぬことであると思ひます、唯茲に注意しなければならぬことは、大都會では、自治制度について話してもどうも其の觀念を得させることが六ヶ敷いのであります、之れに反して農村では、學校の窓からすぐに見える所の役場・神社・お寺といふ様なものを捕えて話をすると、すぐに村といふものゝ大体の觀念を頭の中に生じて來るのであります、東京とか、大阪とかに於いては、其の點が仲々うまく行かぬのであります、私共が東京市といふものは、吾々が組織して居るのであつて、電車を動かして居るのは、吾々であるといふても一向其の氣がしないのであります、之れは農村の方と餘程違つて居る點であると思ひます、第三は經濟觀念の養成でありまして、之れは實業學科としても

大切のことでありまして、ケルシエンシユタイナー等は之れを職業科の中に包括して、其の一部として教へてよいといふて居ります、實業學科と此の點は十分に關聯を保つて居らなければならぬのであります、獨逸あたりでは、學問の制度が整備して居るからして、職業に關すること以外の知識を公民科で授けて居つてもよいのであります、我國ではまだ其の域に達して居らぬからして、公民科の中で經濟觀念の養成をしたいと思ふのであります、それで我が國では渡邊博士も言はれて居らるゝやうに、公民科に於いて經濟のことにも及んで、運輸・交通・通信・會社・銀行・手形・貨幣・度量衡の話などをそれ／＼事項別に教へて、尙各種の産業狀態なども時間があつたら教へて貰ひたいのであります、之れは補習學校でなくては出來ぬ事と思ひます、そして郵便のことを話すならば、内容証明とか、別配達とか、配達証明等の如き特殊取扱のことまでも教へ、又銀行ならば、銀行の業務はどんなものか、預金の場合に定期預金はどういふものであるとか、當座預金はどうか、貯蓄預金と何處が違ふかといふ

やうのことを教へるのであります。第四は海外發展の氣風を養成するといふことであつて、之れは第三と同じでもよいのであるが、特に一項として擧げたいのであります。御承知の如く、人口の密度に於いては英吉利が第一で、和蘭が第二で、日本が第三であります。日本は人口の増殖が非常に早いのであつて、統計について見ても、明治の初年と今日とでは、其の増加のパーセントが大分違つて居るのであります。之れが救済策としては、外國に發展する即ち移殖民するといふ事の外に途はないのであります。農學校などでは、往々殖民の必要なる所以を説いて、長男は家を守らなければならぬが、二男三男は外國に出よといふ事を獎勵して大いに殖民政策を力説して居る所の學校もある様であります。之れで大体四項について申しましたが、公民教育に於いては、要するに、憲政の大体と經濟の概念を授けて、尙出来るならば私法の大意をも説きたいのであります。最後に對外關係を説くのであります。補習學校は他の學校と違つて居つて、學科と學科との關係が密接にならなければならぬのであります。それ

で公民教育は實業學科とか、修身科と組合せてもよい、ごういふ學科とも關係があるからして、國語と關聯して一つにしてやつてもよい、又地理とか、歴史とやつてもよいと思ひます。ゲーリー學校などでは揚言して居るが、公民教育といふことについては、特別の學科は設けぬが、生徒自身に公民教育の内容を實行させて居ると申して居ます。學校の管理、圖書館の管理其他適當の機會に於いて色々のことを實行させるのであります。之れはゲーリー學校にして始めて出来ることでありまして、吾々には出来ないことが多いのであります。

次ぎには、公民教育の教へ方であります。公民教育に於いては事項別に個々別々に話をするのであります。八百屋見たいに色々の澤山の材料を集めて來て教へるのであるからして、其の教へ方も他の系統的の學科と違つて居らなければならぬ譯であります。澤山の材料があるのであるからして、それらの材料を整理して、それを簡單明瞭に教へなければならぬので、教へ方にも種々工夫が要らふと思ふ、それから之はご

の學科でも同じことであるが、殊に公民教育に於いては、趣味をもつて教へるといふことが大切でありまして、趣味をもつて教へる事がなかつたならば、丁度蠟を噛むやうになつてしまふのであります、例へば國家の三要素を教へるにしても、機械的に主權・領土・臣民と列擧するのみでなく、臣民のことを説く場合には、我が民權の特性などを説いて聞かせるも生徒も興味を感じます、若し趣味をもたないで教へたならば、此の學科程つまらなく見らるゝ學科はなからうと思ひます、さて、教へ方はどういふやうに教へるかといふに、近頃色々教授法に付ても工夫がある様で、従て種々耳新しい名稱も用ゐられる様であります、私は教授法の書物を読んだことはありませぬから、茲でいふ教授法といふのは唯私が實際から割り出した所の教授法でありますから其のつもりで御聽取を願ひます、それで公民教育の教へ方には、四つの方法があらうと思ひます、第一は生徒を中心として生徒の身邊から教へ始めて漸次に其の環境に及ぶやうにするのであつて、先づ生徒の家といふことからして、此の家は日本

に於いてはどういふやうになつて居るか、家長とは何か、家族とは何か、家長と家族とは如何なる關係があるかといふやうに家の組織から始め扶養の義務とか、相続とか、親族とかのことに及ぶのであります、それが終ると、今度は家に關係して居る所の職業とか、職業についての組合等についての一般的のことを教へるのであります、それから農業補習學校に於いては、農事獎勵に付ての法律等について教へる、開墾助成法とか、耕地整理法といふやうのものを説明して徹底せしむるのであります、それが出來たら段々範圍を擴げて來て社會とか、國家に關することを教へるといふことになるのであります、之れは自分に近い所から行くからして生徒の頭に入り易いといふことは甚だよいのであるが、未だ法令の知識がない所の生徒に對し、いきなり親族だの、相続だのといふことになるも生徒の頭に入ることが六ヶ敷いのであります、次に、第二の方法は先づ町村を基本として説明するのである、先づ村の神社・寺院等を我が村の寺院、我が村の神社といふやうにして、此神社の祭神はどなたであるか、社格は

どうであるかといふやうのことを教へる、それからあれは里道である、あれは縣道である、國道である、そして國道は誰が管理するとか、縣道はどう、里道はどうといふやうに村を基本として教へて、其の次に村の組織や村會のことや財政のことなどを説き次第に範圍を擴げて行くのであります、之れは相當頭に入り易いのであります、生徒にも亦比較的興味を起させて餘程工合がよいのであります、第一の方法と同様の困難を伴ふことは忘れてはなりません、第三は事件別或は事項別に教へるのであつて、之れは事件が起つた時に、其の事柄をつかまへて、それを材料として教へて行くといふことになるのであります、之れは現在の時事問題であるから、生徒も幾分はそれを知つて居るからして、非常に興味をもつてすらくとやつて行けるのであります、例へば議會の開かれて居る際に、議會の話、議會と國家との關係とか、或はそれから市町村會・縣會といふやうのものをやる、又工場法が出た時に工場法の説明を與へ、それから延いて我國の工業の情態を説明するといふ風に問題の有るに任せて、

それから延いて關係ある法令等にも亘て説明するので、生徒には不完全ながら又散漫ではあるが事件の起つた時には幾分は知つて居るのであります、そこへ説明を與へてやるのであるからして、生徒は非常に興味をもつて聞く、従つて之れは一番生徒の頭に入り易いのであります、尼港の虐殺事件のあつた時の如きは、之を捕えて國家の説明に結び付ける、即ち國家の完全に成立つて居らぬ國に於いては斯ういふ虐殺なども行はれるのであるが、日本のやうの國に於いては、そんなことがあるべき筈がない、之れは吾々の大なる幸福である、西洋人は自ら文明を以つて誇つて居るが、尼港虐殺事件の如きは何たることであるか、過去に於いてもユダヤ人の虐殺といふことは屢々行はれた、實に言語同斷のことである、之れにつけても國家といふものが堅く出來て居らなければならぬ、國家の基礎薄弱なる國民は實に不幸である、吾々は飽く迄も日本の金匱無缺の國家を擁護しなければならぬといふやうに教へて行くのであります、之れが事件別の教授法であります、斯ういふやうに事件別にやることは生徒に興味を

もたせて、解り易いのであるからして、利益の點も餘程多いのでありますが、また之れに伴ふ困難も起つて來るのであります、此の方法の悪い所は何であるかといふに、何時も都合よく事件が起つて呉れれば何のことはありませぬが、さうは行かぬで、時には事件の全く起らぬ時もあり、又時には事件が幾つも／＼重つて起つて來るといふことでありまして、豫定の材料を教へるに基だ困るのであります、そこで私は第四の方法の方が最も平凡ではあるが、又最も無難であり教へ易い方法であると思ひます、第四の方法といふのは、先づ國家の成立から日本の國体を説き天皇・立法機關・司法裁判所・行政官廳の説明をなし、次に自治行政のことを述べ、更に宗教・教育・外交・軍備等のことを教へ、第二に財政經濟に移り國の財政經濟の組織即ち産業の情態・會社・銀行・産業組合等のこと、運輸・交通・通信の制度に及び、第三に殖民地及海外の事情を述べて、國民の海外發展の氣風を振興するに努める、此の方法でやれば、先生もやり易いし、生徒も秩序的に習得するので解り易いといふことになるのであります

す、さういふやうにやつて、それに時事問題を挿むでやる、其の時には其の前に教へた所と結び付けてやるといふやうにして居るのであります、斯う四つの方法があらうと私は思ふのであります、それから生徒に教へるにも、農村の方は比較的工合がよからうと思ひます、此所に御集りの方は多くは農業補習學校の方であらうと思ひますが、都會の補習學校の生徒は、年齢が不等で十五六歳から四十歳前後のもの迄であるからして、十四位のものに解り易くて面白いことは、年取つた髭のある方はそんなことは百も承知二百も合點といつたやうの顔付をして居る、年を取つた所のものに解るやうの適當の話をすると、若い所のもは何にも解らぬで居眠をするといふやうの譯で仲々六ヶ敷くてうまいかぬのであります、之れはどうしても先生の手腕によるより外に方法はないのであります、大体教授法についてはそんなことであります、最後に私は一二希望を申して置きたいのであります、公民教育は實業補習學校の主要なる學科の一つであるといふことは、更に繰返して申し上げる迄もありませんが、



今日立憲政治が段々と進んで行く際に當りまして、國民に對し立憲自治の思想を鼓吹することは非常に大切のことでありまして、此の點に於いて、實業補習學校に公民科を置いて生徒をして將來の立派なる立憲國民たらしむることは、補習學校の重大なる任務でありまして、此の任務に當らるゝ所のものは皆さん方であるのであります、此の點はあなた方の任務は重且つ大なりといふべきであります、此の様に重大なる意味をもつて居るのであるからして、今後出來得る限りの努力を以つて此の公民教育の徹底を期するやうに、あなた方の御注意を希望して止まぬ次第であります、之れについては公民教育を徹底せしむることは頗る至難のことであるとの嘆聲を實際家の方から聞くことではありませんが、其の理由とする所は、吾々は法律や經濟に關しては、大學や専門學校で習つたのではないからして、到底十分に生徒に徹底させる様にするには出來ないといふのであります、之れは一應は御尤のことではありますが、私の考へでは、公民教育をやるにしても、法制經濟の知識はそれ程に必要はないと思ひます、

何故かといへば先き程御話いたしましたやうに、公民教育に於いて生徒に教授する法制經濟は何にも専門的のものではなくして、概括をした所の知識でよろしいのであるからして、師範學校で得られた法制經濟の知識があればそれで十分であらうと思ひます、それに新聞を注意して讀んで居つて下されば生徒に公民教育をするには十分であらうと思ひます、何も經濟學を教へたり、憲法論を聞かせるのではなく、法制經濟の概括的の知識を授ければよいのでありますから、少し位間違があつてもよからう、公共團體や國家のことに付て感激の念を以て教授し、生徒にも感激の念を起させることが出來たならば、公民教育の目的はそれで十分に達せられたものであると思ひます、昨日も長野縣の方の御話に生徒に新聞をよませるといふことがありました、それはまことに結構なことであらうと思ひます、私は始業の始めに、生徒に向つて諸君に教へることは新聞を精確に讀む力を養ふのであると申して居りますが、多くの人は新聞を見るには、先づ三面を開いて社會記事を見て、それから政治記事を読むといふ場合

であつて、外國電報などを讀む方は少いであらうと思ひますが、經濟記事も一部の方は讀むであります。之れも一般の人には餘り讀まれないであらうと思ふ、それで實際新聞が頭から終りまで、十分に解されるといふ人は立派の公民であらうと思ひます、さういふ意味で公民教育に於いては、出来るだけ新聞紙などによつてやることも大切のことであると思ひます、私は學校で新聞を取つてはやりませぬが、其の精神でやつて居るのであります、それと共に數字をなるべく多く使つて戴きたいと思ひます、以前は統計の書物がなくて困つて居つたのであります、近頃は時事年鑑とか、國民年鑑とか、毎日年鑑といふやうの簡易な通俗的な統計の書物が出來て居るからして、さういふものを盛んに使ふと同時に、それらを見ることも教へることが必要でありまして、結局澤山の書物を見るよりも、數字を見ることの方が解りよい場合があります、まして、數の上からして日本の明治の初めは斯う、今日は斯うといふことを教へたならば、數百千言を費すよりも、一言にして効果があらうと思ひますから、成るべく統

計によつて教授するやうに願ひたいのであります、もう一つ御注意を願ひたい事は、此の補習學校に入る頃の青年は、相當に生意氣になりたがる時代であるからして、生意氣にならぬやうに御注意を願ひたいのであります、十五六歳位からの若いものに權利だの義務だのといふことを教へると、直ぐに日常の談話にも權利だの義務だのといふことを使つて見たがるのであります、無論、權利といふことも必要であるが、公民教育で大切なことは、義務といふ責任を重んずるといふことでありますからして、此の義務の念を十分に重んぜしめる、權利を主張することよりも、先づ義務を果すことの大切なることを十分に教へなければならぬのであります、それから又新聞に出て居る色々の外交や政治の記事のことについて話をするといふと、各々が一通りの大政治家とか、大外交官になつたやうに思つて居るやうになるのであります、さういふ點については十分に御注意を願ひたいのであります。

纏らぬ雜漢の話で、一向御參考にもならぬやうのことを長く申し上げまして恐縮で

ありますが、若しも幸に公民教育を実施せらるゝ場合に、私の話しましたことが幾分  
なりとも御採用になることを得ましたならば幸甚の至りであります、私の話はこれ  
おしまひにいたします。(拍手)

# 農村補習教育に就て

東京帝國大學教授  
農學博士

澤村 眞

## 農村補習教育に就て

諸君、此の度實業補習教育に關する講演會の開催になりました機會に於きまして、諸君の御清聽を煩はすことを得ましたことは、誠に光榮に存する所であります。

さて私の御話いたしますことは、農村の補習教育に關することでございますが、今日我國に於きましては、色々の問題が起つて居るのであります。其の中で最も憂ふべきものが二つあります。一つは物質的で、一つは精神的であります。此の二つの問題の解決は、今日に迫つた緊急のものであります。而して物質的問題とは何であるかといふに、それは食糧問題であつて、精神的の問題といふのは思想問題であります。食糧問題は數年前からして、頻りに注意を引いて居るのでありますから、蛇足のやう

であります。一寸御話をいたしたいことがあります。食物の必要なことは、今更贅言を要しません。人間が生活をして居る間は、一定量の養分を採らなければならぬ。例へば日本人の労働者は、一日に少なくとも二千四百カロリーの養分を採らなければならぬ。若し人が食物を採らぬれば、先づ空腹を感じ甚だしくなると餓死するのであります。餓死するに至らぬ迄でも、食物の不足は營養不良になるのであります。營養不良のものは、第一に元氣が衰へて来て、精神上或は肉体上の労働が出来ぬで能率が下つて来る。第二には病氣に抵抗する力が衰へて来て、傳染病殊に結核病の如きものに侵されるのであります。營養の良いものは結核菌が一つや二つ入つて来ても、決して病氣にならぬ。次ぎには繁殖力が衰へて来て、子供が生れぬ、また生れても營養不良のものは子は弱い、獨逸國が戰爭中、食糧不足の爲めに國民が營養不良に陥つて、生れた子供には爪が無いものがあつたといふことであります。又生れてから後も發育が不十分であつたといふことでありますが、それを以つて見ても、子孫に

影響することが解るのであります。次ぎに、食糧不足といふことは、人心を險惡にする、人間が悪くなるのであります。彼の佛蘭西革命も食糧の不足が原因でパンを與へるか、自由を與へるかといふことで革命が起きたのであります。英吉利の言葉に「エ、ハンガリーマン、イズ、アンアンガリーマン（餓えたる人は怒る人である）」といふ諺があるが、食物の不足は人心を險惡にするものであります。

さて日本の食糧問題はどうかといふに、日本は人口の割合に耕地が少いのであります。獨逸はどうかといふに、面積は我國と朝鮮を入れると、日本が少し大きい。殆んど同じといつてよい。それから人口も戰爭前は同じであつたが、耕地段別は日本は内地の五百萬町歩、朝鮮・臺灣の三百萬町歩を合せて八百萬町歩であるが、獨逸は三千五百萬町歩であつて、日本の四倍以上の耕地段別があるのであります。日本は全部二毛作をして土地を二倍に使ふとして見ても、千六百萬町歩で三千五百萬町歩の半分にも足らぬのであります。斯の如くにも拘らず、我國の耕作地が少くて食糧

の生産豊でないのに拘らず、我國の人口繁殖率は非常に盛んである、日本では年々千人につき十三人づゝ増殖をするのでありまして、世界に其の比を見ない、斯ういふやうに人口はどしどし増加して來るのであるから、假りに農業が進歩せぬで今日のやふであるとして、人口の増殖率が今日と同じに進んで行くとしたならば、食糧が如何に不足して來るかといふに、今から三十年後には、人口は今日の五割も増加するから、今日一人當りの食糧の米麥一石三斗であるものが、三十年後には九斗六升即ち今日の三分の二になるからして、三度の食事を二度に減しなければならぬことになるのであります、乍併、三度の食事を二度に減することは困難のことであるから、どうしても食糧の増加を圖らなければならぬ、それにはどうすればよいかといふに、一には耕地を増すことである、次に、一段歩の收穫量を増す此の二つの手段によるより外方法がないのであります、耕地を増加することであるが、これが日本に於いては、可能であるか可能とすればどの位まで増すことが出来るかといふに、耕地は傾斜の急の

所は駄目であるが、十五度以下の傾斜の所は開いて田なり畑なりにすることが出来るのであります、十五度以下の傾斜地が内地では總面積の二十五パーセントあるのであります、其の中で現に耕作に用ひて居る所が何程あるかといふに、十四パーセントになつて居るのでありますから、二十五パーセントの中より十四パーセントを引き去つた残りの十一パーセントといふものが、現在では山林原野となつて居つて、農業に使用せられて居らぬのであります、詳しくは農商務省で技師を派遣して調べさせて居るが、それによつても少くとも二百萬町歩やそこらは開墾の見込があるといつて居るのであります、故に耕地を増加することは可能性が十分にあるのであります。

次に、一段歩の收穫量を増すにはどうするかといふに、之れは色々の手段がありますが、其の中の重なることは、品種や施肥や作物の管理を改良して、收穫量を増加する事であり、かく收穫量を増加するに可能の事が色々あるのであります、品種の改良の一つでも之れをやれば、餘程收穫を増す事が出来る、品種の改良はごうい

ふことかといふに、御存じの通り、今日の作物は、元は野生の植物であつたものを、段々人の注文によつて、品種を變へて今のやうな畸型の植物にして、之れを利用して居るのでありまして、今日に於いても品種を改良をさせて居る者があります、其の中で殊に急激の變化をさせて世人を驚かしたのは、亞米利加のバンバークといふ人であり、此の人は刺のあるサポテンを刺のないサポテンに變化をさせたのであります、サポテンは刺がないと牛や馬の飼料にすることが出来るが、野生のサポテンは刺がある爲めに、牛馬の飼料とすることが出来なかつたが、バンバークが品種を改良して牛馬の新飼料を得たのであります、此のことは有名なる事實として世に知られて居ることであります、此の様に品種を改良することは可能のことであるからして、今の作物を收量の多い品種に改良すれば、一段歩の收穫量を増すことが出来るのであります、それから又害虫を驅除することも、收穫量を増加するには大切のことで、害虫の驅除が十分に出来るならば、現在の一割位は收穫を増加することが出来るのであります

す、農業の技術を改良して收穫量を増すことも、また可能であります、其の證據は明治の初年から見れば、今日は農業の技術が大いに進歩して居るが、其の進歩の結果として、前には全國の米の收量が一段歩一石五斗であつたものが、今日では二石になつて居る、僅か十年位の間に二割五分も増して居るのであります、之れは全國の農事が改良された結果であらうと思ひます、かく技術の改良でも、一段歩の收穫量を増すことが出来るのであります。

それから消極的手段ではあるが、作物の中で養分の含量の多い作物を選んで作れば、食糧の生産の増加をもたらすことになるのであります、然らば養分を生産する所の最も多い作物は何であるかといふに、一段歩の收穫中に含まれて居る養分を積算して見ると、米を作つて白米にして飯にして攝ると、一段歩から七十萬カロリーを生産する、米に次ぐ所の大麥は麥飯にすると四十五萬カロリーである、小麥は挽いて粉にしてパンにして食べると大分養分が少くなる、之れは小麥に收穫量が少いの粉にす

るとき穀が出るからで、パンにして食すると二十五萬カロリーとなるのである、我國でもパン食をせんければならぬといふ人があるがパン食にすると米食にするよりも、養分の生産量が少いから、國家經濟からいへば損の譯であります、それから一番餘計に養分を生産するものは甘藷で、九十六萬カロリーであつて米よりもづつと多いのであります、かく作物の中で一番養分生産の多いものを作ることもよいが、之れは消極的方法であるから、成るべくは積極的にやる方法を講じなければならぬ。

積極的方法としては、耕地を増すとか品種を改良するといふこともよいが、又技術を改良しなければならぬ、農業者が盛んに耕地の面積を増し、技術を改良するやふにしなければならぬのでありまして、之れをするには、是非共、農村を繁昌させることが大切であります、何處の國でも農村を逃げ出すものが多いのでありまして、農村を盛んにするについては、何れの文明國でも問題になつて居るのであります、御存じの通り、農村を脱走することの最も多い國は英吉利で、英吉利にては、人口の七割は

都會に居り三割しか田舎に止まつて居らぬのであります、其の結果として英吉利は農業を集約にやることが出来ないで、到る處豊饒の土地に草を生して牧畜をやるやうになり、其の結果國民の食物の五分の四位は加奈陀や印度から買ひ入れて居るのであります、所が今度の戦争には食物の輸入が思ふやふに出来ないで、食糧の不足を來して非常に困つたので、狼狽して農業奨励をしたのであります、一例を挙げれば、戦争の爲めに澤山の兵員の必要な時であるにも拘はらず、田舎に居つて農業に従事し、他に代へることの出来ない所の農業の技術に従事するものは兵隊にとらないし、又都會の女を田舎に動員して農業をさせたのであります、かく農村脱走が甚だしくなると、食糧の不足を來すもので、英吉利の如きは其の適例であります、日本に於いても、農村脱走の現象が起つて來まして、東京の人口の増加は、全國の増加率の三四倍になつて居るのであります、之れは田舎を脱走して東京に住むものが多い爲めであり、然らば農村は悪くて都會は非常に良い所かといふに、都會は別に良い所でも何でも無い



ので、第一は健康によくない、明治四十年の内務省の統計によれば、結核病で死ぬものは、人口一萬人に對して、郡部は十三人餘りであるが、市部は二十八人餘り死んで居る、市部は郡部に對して二倍以上死んで居るのであります、それから壯丁の体格検査の結果を見ると、甲種合格は受検者に對して、郡部は四十パーセントあるのに、市部は三十三パーセントで、甲種合格が市部の方には餘程少いのであります、之れは日本ばかりではなくて、獨逸に於いてもさうである、戦争の始まる前に、獨逸で調べた所によると、徴兵検査の時に、田舎に生れて農業に従事して居るものと合格率は六十五パーセントで、田舎に生れて農業以外の職業に従事して居るものは五十八パーセントで少しく劣つて居る、それから都會に生れて農業に従事して居るものが、五十六パーセントで、都會に生れて農業以外の職業に従事して居るものが、四十六パーセントになつて居るのであります、田舎に生れて農業に従事して居るものが一番強壯で、都會に生れても農業をやつて居るものは割合によいのであります、ベルリン市民の合格

率は三十六パーセントで、獨逸全國は五十六パーセントである、都會に居れば身体の悪くなるのが、之にて知られるのであります。

斯く都會に移る爲めに農村を脱走するのであるが、其の脱走する原因は何であるかといふに、其の重なるものは青年が勞働を嫌ふことで、次ぎには、小學校などで向上心を無暗に煽ることで、第三は田舎生活の不便と不愉快とである、田舎では良い醫者が不足であるから、病氣の時に困ると云ふこともあり、又田舎は娯樂がないが、都會には色々の娯樂が何時でも得られる、又不愉快といふのは、田舎では社交上のことが六ヶ敷いから、中産以上の人が樂な生活をした爲めに都會に出て來る、都會では田舎に居るやうな精神上の苦痛がなくて氣樂に生活して行けるといふので大都會に移住する、斯ういふやうに農村脱走には色々の原因がありますが、其の最も大なる原因は農業の利益が少いといふことであります、農業は昔からして一攫千金の儲けがない、農業をやつて一番儲かる所は亞米利加であるが、それにも拘はらず亞米利加でも農業

の儲けが最も乏しいと云はれて居るのであります、亞米利加の Cornell 大學の農科大學長であつたベリーといふ人が、農家に生れた學生につき、農業に従事しやうとするものがどれ位あるかを調べたが、家に歸つて農業をするといふものが甚だ少いのであつた、そこで其の理由を質した、所が其の理由は農業に従事して居ると、社會と隔絶してしまふから好まぬといふやうなものもあつたが、一番多いのは、農業は利益が少い爲めといふのであつて、これが四十パーセントあつた、其の次ぎは、農業は勞働が激しいから従事したくないといふのであつたのであります、亞米利加のやうに、農業の利益の多い所でも斯うであるからして、日本のやうの所では、農業は利益が少いといふ理由で、都會に移るのは無理もないことであります。

併し乍ら、農村を盛んにするには、農村に多數の人を引きつけることが大切であつて、それには農村脱走の原因を調べて、それを防ぐやうにしなければなりません、第一の原因は勤勞を厭ふ爲めであるからして、小學校の時代からして、勤勞を好む習慣

を付けることが大切であります、それから第二には、小學校などで無暗に向上心を煽らないやうにする、無暗と向上心を煽つて都會地に憧憬させるやうのことをせぬやう、修身科の教授などに於いて注意しなければならぬ、又農村生活の不便や不愉快を減する事も工夫したらよからうと思ひます、獨逸では一つの協會が出来て居つて、協會の仕事は、農村の不便を減する爲め看護婦と教員とを兼ねたやうな女を養成して、農村に派遣して居るのであります、之れを農村世話女といふやうな名をつけて居るが、此世話女は常に幼稚園の嫁母の仕事をして居る、獨逸の村は、廣い爲め一つの小學校の生徒が少なく、多くは單級教授にしなければならぬやうの状態だから、幼稚園などは無論設けてない、それで此の世話女が幼稚園の仕事をする、又午後からは、小學校を卒つた娘を集めて補習教育をやるのであります、それから此の女は看護婦の免狀も有つて居るからして、重病人などの時は、其の看護もやる又産婆の免狀もあるから産婆もするのであります、又急救療法の材料があるから怪我なごした時は其の女

が行つて繙帯をしてやるのであります。此の世話女は戦争前に始つた所のもので、今日はどれだけ發達したか解りませぬが兎に角結構なことであります。日本でも何とか工夫して農村の生活を氣樂にするこの出来るやうにしたいのであります。それから農村脱走の大原因は、農業の利益が少いことであります。利益を増すことは、農村脱走の第一の豫防法であるが、それは後に述べたいと思ひます。

次は、思想問題であります。昔から都會は思想動搖の震源地と認められて居るのであります。思想は都會で動搖して來るのを田舎で喰止めるのであつます。所が近頃は、思想の動搖が田舎にも起つて居るやうに思ふのであります。思想の動搖の一例として現れて居るものは、地主と小作との争ひであつて之れを見ると田舎に於ける思想が如何に變りつゝあるかを會得することが出来るのであります。地主對小作の紛擾の最も甚だしいのは關西地方であるが、私は紛擾の最も甚だしい地方の事實を少しく申して見たいと思ひます。最も紛擾の甚だしい所では小作人は組合を拵へて、凡て組

合員は同一の行動をさるこいふことを公正証書を以つて約束して違約の時は五百圓位の罰金を取るのである。それから組合に入らぬものは絶交で其の村に於いては仲間に入れぬのである。又地主でも僅かでも土地を借りて居るものは強制して組合に入れるのであります。之れに對して地主はどうするかといふに、地主には大小あつて、各其事情が違ふから同一の行動をさる事が出来ない。そこで小作組合の方では先づ弱いやうな地主に要求を承諾させる。それからまた同様の方法で次ぎに移るといふやうにして、一つの城をとり、次の城に行くといふやうにやるのであります。其の強い團結の力を以つて色々の手段でやるのであります。或は數百人集つて地主の所に行つて小作料を負けて呉れと迫る。或は夜分地主の所へ行き、外には亂暴のものがあるから早く返事して呉れと威す。或は主人の留守で、女ばかりの時を選んで談判をするといふやうにするのであります。地主が集つて小作人への返事を相談をすると、其家を小作人が取り巻いて自分達に都合のよいやうに相談をしないと其の家を一步も外に出さぬ

と脅やかすのであります、又或る村では御神輿を拵へるのであるが、其の御神輿は非常に丈夫のもので棒先には鉄を打ち付けてあるのであつて、それを昇いて行つて地主の家を壊すのである、小學校でも地主の子供を小作の子供がいちめるので、仕方がないから子供を學校に出さぬで休校をさせるといふやうのこともあるのであります、又中には地主に小作料を負けて呉れなどいはぬで、此方から減して持つて行つて、之れだけにして呉れといつて負けさせて仕舞ふのもあるのであります、此紛擾の根元はさうであるかといふに、込米といふて、一俵について幾らか米を添へる慣例になつて居つたが、近頃は産米検査をするから、俵米の不足はあるべき筈がないから、此の込米をやめて呉れといふた所が、地主では込米をまければ、次には掬米値切られるらふと恐れて小作の願ひを聞き入れなかつた、其の中に水害などがあつたから、其の時に小作の方では、込米ばかりではなく掬米も減額をして貰ひたいとせまつて其の目的を達した、之れからは小作人が元氣を増して來て、後から／＼と小作料の減額を迫るや

うになつて來たのであります、それでそれ等の地方では小作人が他より多いか、また小作料が他より高いかといふに、小作人の數は日本全國平均が二十八パーセント、自作兼小作が四十四・四パーセントで、二者を合せて六十八パーセントであるが、紛擾の烈しい地方では、小作が三十二・八パーセント、自作兼小作が三十八・六パーセントで、此の二つを合せて七十パーセントで全國より僅かに多いだけで、非常に多いといふことはないのであります、然らば土地が不足して居るかといふに、全國は一戸當り田畑一町歩であるが、此の紛擾地は一戸當り八段歩で少し足らぬが、其中、田は全國は一戸當り五段四畝で、此處は五段五畝であるから畑が少いので、さほど土地が足らぬといふ程でもないのであります、それから小作料はどうかといふに、此地方は二毛作の出来る上田は一段歩一石五斗で、中田は一石一斗下田は八斗で平均一石一斗六升五合になつて、全國の平均一石一斗五升六合と一升と違はぬのであつて、非常に高い小作料を取つて居るといふのでもないのであります、これで見れば、今日は調子に

乗つてやつて居るのであつて、小作人の要求は既に正當の範圍を超えたやうである、而して最早地主が恩惠を施して、温情主義でやるなどいふことは何等の効もないのであります、或る地主は菩提の爲めに道しるべを拵へたいといふたが、小作人の方ではそんなものは貫はぬでもよいといふので斷つてしまつたといふことがある、多少の温情主義などは何等の効もなく、今日は全く紛擾は經濟問題ではなくして、思想問題に變つて居るやうであります、斯ういふ思想が農村にあることは非常に憂ふべきことであります、町の方は思想動搖の震源地であるから仕方がないとしても、農村がそれにかぶれるのは實に困つたことであるのであります、それでさういふ思想が農村に入らぬやうに吾々は努めなければならぬのであります。

地主と小作人とが喧嘩をして居つては、農業の進歩を圖ることが出来なければかりでなく、一方には大問題たる食糧問題の解決も出来ないのであるから、どうしても此の紛擾をなくしたいと思ひます、今日の關西地方の紛擾では、地主が悪いか、

小作が悪いか、どちらに曲があるかは解らないが、兎に角不祥のことです、争の解決を言論でやるならばよいが、暴力を用ひるといふことになるのであります、言論でやれば正當の範圍を超えることはないが、暴力を以つて争ふことになることは正當の範圍を超えて来るからして、暴力を用ひて問題を解決しやうとすることは甚だしく危険のことです、それでどうしても此の紛擾を豫防することに努めなければならぬと思ひます、此の點は餘程の注意をしてやらなければならぬのであります、農商務省でも小作法を制定するといふので、只今準備中だといふことであります、法律によつて地主對小作の問題を解決するといふことも必要ではあります、法律によつて全部の解決をすることは頗る困難のことで、根本的に之れを豫防するには教育の力によらなければならぬと思ひます、即ち一方に地主の自覺を求めると同時に、他の一方にて小作人の収入を増すやうにしなければならぬのであります、小作人の収入を増すには農業の収益を増すやうにするのであります、此の様にすれば此の争ひ

を自然に解決するであらうと思ひます、資本家と労働者との争ひは、どういふ國に最も激しいかといふに、古い國で事業の利益が潤澤でない所に多いのでありまして、何をやつても利益が多い國には少ないのであります、亞米利加のやうに、總ての事業が有利の國に於いては、労働争議は少いのであるが、英吉利のやうに、古い國は争ひが年々激しくなつて行くのであります、獨逸なども英吉利に較べると新しいからして、戦争前には争ひは少かつたのである、それから日本でも近頃は労働者の騒ぎが流行るが、經濟學者の話では之れは不景氣になつたからだといつて居る、貧乏の家庭には夫婦喧嘩が絶えないといふことがあるが、小作人の収益を増すことが出来たならば、紛擾も従つて減るだらうと思ひます、一段歩に一石の小作料を取られるとしても、一段歩に二石取れる時には收穫の半分取られることになるけれども、一段歩の收量を三石に増せば小作料は收穫の三分の一になるからして、小作料を輕減せられたと同じ結果になるのである、故に農業の利益を増すことになれば、小作人の地主に對する感情も

餘程變つて來るであらうと思ひます、殊に日本のやうに世界中で小作の多い所では、地主對小作の關係は、周到の考慮をしなければならぬのであります、そこで其の地主對小作の紛擾を防ぐ最良の方法は小作人の收入を増すことであると申したが、此の説の誤らないのは、紛擾の盛んにある地方では、小作料輕減の口實として、肥料や種子などが騰貴して利益が少ないから、小作料を減して呉れといふて居るので解かります。

農業の利益を増すことによつて、地主も小作人も共に利益を得るのであるからして、農村問題に於いては、農業の利益を増すことが第一の急務であると思ひます、さて、農業の利益を増すには色々な方法があるが、之れを大別して二つあると思ひます、第一は技術上の改善であつて、第二は經濟上の改善である、此の兩方面からして改善して行つたならば、農業の利益は大いに増すものと信じます、農業の技術上の改善は總生産を増し、經濟上の改善は純生産を増すのであるが、之れは何れも個人でやること

は困難であります、それで農業の技術を改善する方面に於いては、國家で農事試験場や農學校を設けて、此處で研究させて其の成績を民間に宣傳する事になつて居る、それから經濟上の改善は、制度の改善を行ふことが大切であつて、農業者が經濟上不當の損失を被つて居る所の事柄を改善して行くのであります、例へば肥料等の購入、收穫物の販賣のやうな賣買上に、農業者が不當の損失を被つて居ることのないやうにする、又資金を得る場合にも、高利の資金を借りて居るものがあるから、之れ等にも低利の資金を借り得るやうにしてやるのである、此の爲めに農工銀行とか、勸業銀行といふものが出來て居るが、斯ういふものによつて經濟上の改善をするのであつて、既に其の仕組は備はつて居るのであるからして、之れからはさういふ制度を十分に利用することが出來たならば、農業の經濟上の利益を増すことが出來るであらうと思ひます、又信用組合は獨逸のライプハイゼンといふ人が創めたもので、此の人は判事をして居つたのであるが、官を罷めて村に歸つて見ると、村が大さう衰微して居るので、

何とかして村の衰微を防かふと色々考へた末、信用組合制度をこしらへたのであります、それからライプハイゼンの村は段々と繁昌して來たから、他の村が之に倣ふやうになり、遂に今日のやうに各國で此の制度を採用するやうになつたのであります、技術上の改善をするには、國家が研究の成績を宣傳獎勵するやうにし、經濟上の改善についても、國家が色々な施設をして呉れば、農業の利益を増すことが出來るのであります、併し乍ら、斯ういふ施設が十分に出來ても、之れが運用がうまく行かなければ、其の効果を十分に發揮することは出來ないのであります、信用組合が組織されても、此の組合をうまく利用せないと、試験場や農學校などで有益の研究をしても、當業者がそれを應用しなければ何にもならないのであります、之れ等のことを十分に活用するには、どうしても農業者の頭を改善しなければならぬのであります、それ故に農業上の技術や經濟の改善をする爲め、其の施設を十分にすると共に、之れを運用する所の當業者の知識を進め、又人格を造くるといふことが最も大切のことであり

ます、農業者の利益を最も永久に増させ、又農事を根本的に改良しやうとするには、農業者の人格を作ることでありまして、之れが最も大切な事であり、さて、斯う申しましたら、それでは現在農學校とか、補習學校といふものが澤山あるが、これが爲め日本の農業にどんな利益があつたかと問はれる人もあらうが、日本では未だ之について計算的に調べたことはありませんが、日本もさうであるといふことは、亞米利加に於いて調べた結果を見れば解るであらうと思ひます、亞米利加の新約州のリークといふ人が調べた結果によると、同じ農業の事業に従事して居つて、一年間に得る利益が教育程度の違ふのに従つて大變に違ふ、即ち小學校の卒業者は三百十八弗であるが中學校卒業者はそれと同じ事業をして平均六百二十二弗の收得で、小學校卒業者の倍になつて居るのであります、大學卒業者は同じ事業に従事して平均八百四十七弗になつて居るので、小學校卒業生の三倍の收入がある、又同じく亞米利加のミヅリー州で調べた所によると、小學校を卒業したばかりの農業者五百五十四人の平均収入と、

小學校を卒業してから二ヶ年の實業教育を受けたもの百五人の平均収入とを比較して見ると、小學校卒業者よりも二ヶ年補習教育を受けた者の方が七十一・四パーセント多いのであります、けれども高い教育を受けたものは、労働の報酬も高い譯であるが、其の労働の報酬を減いて事業だけの純益を比較して見ると、二ヶ年餘計に教育を受けたものの方が四十パーセント多いといふことになつたのであります、此の二つの事實を見ても、教育を受けた者に利益の多いことが解る、之れは獨り農業ばかりではなく、商業も工業も同じのでありまして、教育が職業の利益を増すに大切なことが解るのであります。

以上申しましたやうに、農業の利益を増すには、農業者の教育が大切であつて、農業にては工業などに較べると、特に多く知識を要します、工業者では分業が盛んに行はれて居るからして、其の分業になつて居る一つの簡單の仕事を習へばよいが、農業はそれと違つて分業が行はれて居らぬからして、工業のやうに簡單には行かぬ、即ち



農業者は各々獨立した企業者であるからして、銘々が米も作らなければならぬ、野菜も作らなければならぬ、蠶も飼はねばならぬ、馬も飼はねばならぬといふやうに何んでもしなければならぬからして、それ等についての知識を皆んな持つて居らなければならぬ、農業をするに、昔ならば鍬一挺ですんだが、今は犁を使ひ牛や馬を使ふから、牛馬の知識もいる、又亞米利加などでは、蒸氣力で犁を動かすから、蒸氣機關を運轉する知識もいる、近頃は畑を耕すにダイナマイトでやることであるから、ダイナマイトを取扱ふ知識もなければならぬ、斯ういふやうに農業に於いても、近頃は種々雑多の知識を有たなければならぬ、昔のやうに簡單のものではなく、仲々複雑なものとなつて來たのであります、それ故に今後は農業を能く營むには、出来る限り十分なる農業教育をしなければならぬのであります、農業教育と申しても、大學教育や専門教育は、誰れでも受けられるものでないからして、誰れでも受け得られる實業補習教育を盛にしなければならぬ、中等教育は相當の資力を備へて居る所の中農以上のものな

ければ受け得られないのであります、最も多數を占めて居る所の小農や小作人は補習學校に入らねばなりません、即ち最も多數を占めて居る小農の子弟が入るのは補習學校であるから、補習學校は最も大切な教育機關であります、ついでには今日のやうな補習學校の状態では満足することは出来ないのであります。

世界の一等國では八ヶ年の義務教育を施して居るのであつて、獨逸のザクセン、バイエルンなどでは、其の上に三ヶ年の補習教育を強制して居ります、日本は僅か六ヶ年の義務教育であるから、之れで兒童の教育は十分であることは、勿論認められない、どうしてもそれ以上の教育を受けさせる必要があるのであります、今日尋常小學校を卒業するものは一年に約百萬人であります、其の中高等小學校に入るものが二十七萬人ある、之に中學校・高等女學校・實業學校に入るものを加へると三十五萬人になるので、残りの六十五萬人は學校教育を受けることの出来ないもので、家業に働いて居るものであります、それで之れだけの人には、是非共、補習教育を受けさせる必要

があります、然るに現在に於いては、年々二十五萬人だけ補習學校に入りますから、六十五萬人には其四割に當る譯で、あとの六割は何處の學校にも行かないで、尋常小學校を卒つただけで家で仕事をして居るのであります、補習學校も之れでは甚だ不振であるといはなければならぬ、尤も都會の補習學校は繁昌して居るのであります、農村のものが不振の状態にあるのであります、此のことは日本ばかりではなく、獨逸あたりも同じで、補習學校は都會に比して、農村の方は不振の状態にあるのであります、獨逸プロシヤでは、都會では補習教育を強制して居り、而して大そう繁昌して居るが、田舎では強制して居らぬし、又繁昌して居らぬ、強制せぬから繁昌せぬのであるか、繁昌せぬから強制せぬのであるかは解りませぬが、兎に角農村の補習學校の繁昌して居らぬといふことだけは事實であります、之れは日本の状態とよく似て居ると思ひますが、獨逸では不振の原因を調べた結果、第一は通學の困難、第二は教育の効果の不明であること、第三は教員の得難いことといふ三點が重なるものと認めて居つ

て、此の點も我國に餘程似て居るやうであります。

第一の通學の困難といふのは、獨逸は村が大きいので學校が遠く、夜學であるから通學が困難になるのであります、又若いものを、夜、外へ出すことは父兄が嫌ふので、入學者が少ないのであります、日本は此の點は幾分よろしいが、兎に角、夜であるから通學は困難でないことはない、此の原因で學校が振はぬやうでありますなら、各部落に教員住宅を拵へ、其の教員住宅を補習學校に用ひることであります、各部落に學校が在るので、生徒の通學の困難を少くすることが出来るのであります、第二の教育の効果の不明といふことであります、工業などに於いては、教育の効果は非常に見え易いのであります、補習學校で一寸習つたことが、翌日はそれが家業に直ぐに役立つのであります、農業は其の効果が甚だ見え難い、農業は教はつた所の効果の現はれるのは、少くとも半年の後でなければ現はれて來ない、例へば種子の選び方を教はつた所で其の種子を蒔いて發芽して、それから收穫するまでには半年かより、其の

時になつて始めて効果が現はれて來るのであります、然るにそれも順當に行つた場合で、種子を蒔いてから收穫をするまでの間に、暴風雨があつたとか、虫害などのあつた爲めに、よかるべき筈のものが却つて悪いとしたら、折角教はつたことがよいことではないと、疑はれるといふ反對の結果になつて來るのであります、それで生徒は一般に其の様な効果の見えない學科よりも、効果の明かな読み書きの方を希望するやうになつて、大抵の補習學校は読み書きの稽古をすることが主となつて、實業學科は振はぬのであります、それで實業補習學校を經營するには成るべく効果の現はれるやうに、教授を適切にすることに注意しなければならぬのであります、教授を適切にするには、當事者は村の經濟状態や村の農業上の技術の進歩は如何なるかを知つて居る必要があります、村の經濟状態をよく知るには色々方法もあらうが、獨逸のプロシヤあたりでは、補習學校の教員は、村役場の吏員や信用組合などの役員を兼ねることになつて居ります、また補習學校と農會や青年會との連絡を圖るが爲めに、教員は農會や

青年會の役員を兼ねて居ることになつて居るのであるが、日本なども獨逸のやうにしたらよからうと思ひます、それから教材のことであるが、小學校の教材は系統を立つて、何れの學科とも連絡をはかつて居るのであります、補習學校の教材はさういふ方は餘り注意しないでもよいのであります、補習學校の生徒は、年齢も長して居るから、教授法の原則などはどうでもよいのであります、補習學校の教材は、小學校のやうに系統立つて順を追ふて教へる必要はない、斷片的で一時間毎に完結し、その上直ぐに役立つやうのものがよい、例へば教材として新聞に廣告されて居る種子・肥料・農具などについて話すもよい、又新しい農業上のことが新聞・雜誌に出たのを話すこともよい、即ち補習學校では教授の効果を直に現はすやうに注意するが必要であらうと思ひます。

第三は教員の得難いことであるが、之れは既に世間でも認められて居ることで、獨逸あたりでも之には困つて居るのであります、獨逸の師範學校には農業科がない、之

れは小學校に農業科がないからであつて、従つて小學校の先生は、農業は知らぬでもよいからであります、之れが獨逸の補習學校に於て、教員を得る上に於いて大なる不便の點である、之れが爲め獨逸では、父兄が、補習學校は小學校の延長であるから入れてもつまらぬといふ、そこでプロシヤでは、巡回教師を置いて、其の巡回教師が補習學校の農業を教へたのでありますが、之れも餘り結果がよくなかつたといふことであります、餘り結果のよくなかつたのは、其の巡回教師が規則正しく廻はつて來なかつたり、また旅費がいり、また巡回教師と小學校の教師とが説が合はなかつた爲めでもあります、兎に角實業の知識の十分に備はつた教員の得難いことは、日本でも獨逸でも同様のことでありますが、もう一つ、獨逸で補習學校の教員の得難いのは、獨逸では小學校教員の待遇のよい所に、補習學校の方の手當は甚だ少かつたので、誰れも補習學校の教員になることを希望しません、それでプロシヤの政府は、小學校の教員は或る年限だけは補習學校の教員をやらなければならぬといふ命令を出した、良い教員

を得るには待遇をよくしなければならぬ、待遇が悪ければ層ばかり集つて來るのであります、良い教員を得るには、是非共、待遇をよくせねばならず、然らざれば落ち付いて其の仕事を献身的にやることは六ヶ敷しいと思ひます、今度補習學校の教員養成の機關が出来てまことに結構のことではありますが、然し卒業生が職に就いた後の待遇をよくして貰はないと、折角養成した優良の教員も直ぐに逃げて行く、よく學問の出來る卒業生は、上の學校に行ける機會があるから、待遇が悪いと、教員を養成しても養成しても皆逃げて行つてしまふ、故に、是非共、教員の待遇をよくして落付いて居るやうに仕向けることが必要であらうと思ひます。

之れで補習學校不振の原因と、之れに對する救済の方法とについて述べたのであります、尙ほ補習學校を經營するには、青年會との連絡を考へて、よく連絡を保つやうにしなければならぬ、縣によつては、補習學校はなくて夜學會のある所もあるやうであるが、何れにしてもよいやうであるが、自分の考へでは、青年團でやる夜學會は

やめて皆補習學校にして貰ひたい、何故かといふに、青年團でやる夜學會といふものには規程がないからして、青年團が勝手に定めてよいが、補習學校はさうではなくして、國家が定めた所の規程に従つてやるのであります、それ故に、青年團では青年の嫌な學科があるとやめてしまふ、例へば修身だとか、實業だとかいふ學科は除けものにしてしまふ、大切の學科であるのといふのではなく、只好き嫌ひによつて、嫌ひの學科は除けものにしてしまふ、然るに補習學校となれば、修身にしても實業學科にしても規程によつて除くといふことの出来ない嫌ひであらうが、習はなければならぬのでありまして、青年が好き嫌ひによつて學科を選択するよりも、文部省が大局から見て必要と認めて定めた規程によつた方が優つて居ることは明かなことでありまして、それで從來のやうな青年團がやつて居る夜學會などは廢して補習學校を立て、青年團と學校とは十分に連絡をとつて、青年團は就學や出席の獎勵といふやうの方面に向つて學校を助けて、教授の方は學校に委すことにしたいと思ひます。

大分時間も過ぎましたが、要するに、今日の日本は食糧問題と思想問題との二つの難問題が迫つて來て居るから、其の解決をしなければならぬのでありまして、其の解決の方法としては色々あるが、最も大切なことは農業教育を盛にして知識技能ある所の人物をつくつて農業の利益を増加しなければならぬ、此の點については、補習教育といふものが最も必要であると思ひますから、皆さんに於かれましても、補習教育を盛大ならしむるやうに御盡力を御願ひいたします。(拍手)

都市補習教育

東京帝國大學教授  
工學博士

佐野利器

## 都市補習教育

昨日は澤村博士の食料問題の御話があつたやうに聞きました、本日は後に横井先生の農村問題の御話があると聞いて居ります、私は其の間に挟まりまして、都市問題について少しく考へる所を申しまして、實業補習教育についての皆さんの御参考に供したいと思ひます。

都市はごういふ性質或は職能を有つて居るか、先づ之を人と家とから言へば、村落に於けるものはポツリ／＼散在して居るが、都市はこれに反して人も家も密集する所である、此の密集といふ性質に基いて、都市人には之れに對應する所の心得が必要であり、知識も必要であります、また村落の生活は自然的であるのに比して、都市の生

活は人工的であります、伊太利の諺に「神は村落を作り人は都會を作る」といふことがある由であるが、如何にも都會の生活は人工的であります、此の人工的といふことの爲めに、都市人にはそれに對應する所の心得も必要であらうし、知識も必要であります、又村落は何れの國でも主として食糧品或は原料品の生産地であるが、之れに比べて都市は主として商工業の地である、即ち商工業をもつて都市は其の職能として居るのであります、此の職能の爲めに、都市人には商工業に對しての心得及び知識技能といふものが必要であります、また村落は近親の人の寄り集り場所であつて、自己の周圍の誰を見ても知つて居る人ばかりであるが、都市に有りては大きくなればなる程知らない人の集りである、即ち知らざる者同士が、複雑なる連鎖的の生活をして居るのである、故に此のことに對する心得・知識も亦特別の必要あらうと思ひます、村落は變化の少い所であるが、都會は之れに反して急激に變化するのである、即ち人口も急激に増加する、此の人口の増加といふことに對應する爲めに、又幾多特別の知識・

心得が必要であると思ひます、村落の活動は單純であるが、之れに反して都市は政治・教育・藝術に及んで、其の性質が極めて複雑であります、即ち村落は總括して國の基礎であること云はるゝやうに、都市は又文化の中心と云はれます、此の文化の中心であるといふ性質の反面として、思想上または行爲上或は風俗の上からして、忌はしいことを中心にもなつて居るのであります、之れ等の性質があることによつて、特に必要な知識も心得もあることでもあります、村落と都市と兩者の關係は何れが重い何れが軽いといふことは言へることではない、等しく國民生活に對して重要な職能地位を有つて居るし、國民の數からいつてもまた主要の數を分けて居るのであります、即ち兩者の健全なる發達が相俟つて國運を支配するものであります、だがそれら村落と都會には性質上に多くの違ひがある、職能上に大いなる相違がある、斯う考へて見ると、村落の健全なる發達を期するには、國民としての一定平等の教育の上に更に村落の人としての特別の心得・知識技能が必要であり、之れと同様に都會に於いても一定平等



の國民教育の上に、更に都市人として必要なる知識技能・心得の教育がなければならぬと信ずるのであります。是れ即ち兩者には各々獨特の補習教育の必要缺くべからざる所以であります。

茲に都市の性質に關して、更に詳述致さうと思ひます。先程都市は急速に生長すると申しました、從來人は我が國を以て農業國であると考へて居つたのに、都市の人口は段々に増加して、國民の重要な部分、著しい部分を占めるやうになりました、之れは我が國は農を以つて國の基礎とするのみ考へて居る間に、我が國の商工業が段々發達して來たといふことを語つて居る所のものであると思ひます。日本の人口は明治の初年には三千萬といふて居つたものが、明治二十六年には四千二百萬になりました、それから年々一・四プロセント位づゝ増加し來りまして、昨年國勢調査の結果によれば、五千六百萬といふ大數に上つて居る、即ち近來は年々約七十萬の増加をなして居るのであります。此の永年の人口増加は何を作つたのであるかと申しますと、

主として町の人口を増加せしめて國中到る所に急速に大小の都市を作つたのであります、之をも少し具体的に申しませう、今假に人口一萬以上の集合地を町又は都市と名け、それ以下の地を村落とするならば、明治二十六年には村落人口の増加は、全土人口四千二百萬の中三千五百萬を占めて居つた、即ち八割四分を占めて居つたのであります、即ち當時は先づ大体に於いて、日本は村落の集りといふてよかつたのであります、所が、最近の調即ち五千六百萬の人口の中、村落人口は三千九百萬になつて居るから、村落人口は本土人口の約七割を占めて居る譯になつたのであります、此數を逆に見ますと、都市人口の總數は、明治二十六年には全土人口の一割六分であつたものが、今日に於いては三割に達したといふことになるのであります、今後猶此の傾向を以つて進むならば、大正三十年頃には、都市の人口は本土人口の五割以上に達して村落人口よりも多くなるであらうと計算しなければならぬのであります、此のことは人によつては農村の荒廢と説かるゝ、都市に人口の集中するは、農村の衰退を來すと云

つて痛嘆せらるゝ人もあります、然し、私は之れを以つて農村の荒廢を招くものとは斷じて思はぬ、日本の村落人口は未だく多過ぎる、ごし／＼生れる、こんな狭い所に農村人不足などの現象の起る氣遣は決してあるまい、國の商業工業の發達を期せんが爲めには、都市は益々大なる速度を以て發達すべき必要こそあると思ひます、明治二十六年頃には、人口十萬以上の都會は所謂六大都市といはるゝ東京・大阪・京都・横濱・神戸・名古屋の六に限られてあつたが、今日では、人口十萬以上の都會は十六を數ふるやうになつて居ります、新潟は僅かのこと之れに入つて居らぬが、新潟位までを數へると何十となるのであります、斯ういふやうに都市の人口が急激に増進して來るといふことは、獨り日本のみの現象ではないのであります、諸外國に於いては約百年前から始まつて來たのであります、何處の國も約百年前に於ては、人口一萬以下の村落人口が多數であつて、全人口の八割位を占めて居つたのであります、今日に於て全く事情一變しました、亞米利加・英吉利・佛蘭西・獨逸諸國に於いては、

人口の大部分は都市人といふ譯になりました、殊に英吉利は大なる率を示して居るのであります、斯ういふやうに都市人口の増加といふことは、根底ある世界的現象であつて、私が茲に大正三十年頃には日本の都市人口も全土人口の五割以上に達すると豫言し希望するといふことは決して不當ではないと思つて居るのであります、斯くの如き都市人口の増加する現象は、一体何によつて起るか、之れは所謂産業革命の結果であります、十九世紀の中頃以後は、人類の生活は獨り天産物にのみ頼るといふことではなくなつて來ました、商業も工業も殊に工業は、科學の發達に伴て大なる發達をなして來た爲めに、人類の生活は有ゆるものゝ加工に待つやうに變つて來たのであります、即ち商業と工業とは、人類の生活の上にて頓に重大なる役目をなすやうになつて來たのであります、而して之れらの商工業は必然に都市に於て行はるゝことの結果として、人口都市集中の現象を招いたのであります、科學の進歩から商工業の發達を促し、商工業の發達は都市の人口の集中となり、其の人口の集中が更にまた商工業

の發達を激成するといふやうに因果關係を以て進みつゝあるのであります、之れを以つて知ることが出来る如く、現代都市の職能は、唯一といつてもよいやうに商工業である、商工業と都市の人口集中とは、相頼り相俟つて密接不離の關係をもつて居るのであります、昔の都市にも商業のみをもつて立つたといふ所も無いではなかつたが、併し、大多數は所謂城下と稱し政治によつて立つて居つたのであつた、昔は政治行政といふものが、即ち都市成立の主たる要件であつて、之れに伴つて商業があり、工業があるといふ工合で、商工業はその従たるものであつたのであります、實際昔の都市を論ずるものは、其の成立の條件によつて之を分類し、名をつけて政治都市・商業都市或は見物の都市といふやうなことを云つて居るが、今日に於ては都市を維持して居る所の力といふものは、悉く商工業であるといつてもよいのである、都市の成立の要件も發達の要件も悉く商工業であつて、他の政治とか教育とかいふものは其の結果から來る所の従たる關係にあります、即ち今日の都市の全部は、昔の所謂經濟都市の種

類であると思つてよいのであります、日光・奈良・京都のやうに見物場として成立して居る所の都市といふものは、今日に於いては其の發達を期し難い、商工業を以つてしなければ是れ等の都市は決して發達をせぬと考へなければなりません、九州の八幡市の如きは、村落から製鐵所のあることによつて二十年間に十萬以上の都市となつた、廣島縣の呉市の如きもさうである、其の間に金澤・仙臺の如きは、商工業上の施設の見るべきものなくして、今日も依然として百萬石の城下であるなどは、大に講究を要する所のものであらうと考へます。

都市の商工業といふものは、人爲的に之れを發達せしむることが出来るものであらうかどうか、場所に略々固有のものであつて人爲的には行かぬものであらうかといふ問題であります、之れは丁度青年の心身を人爲的に發達せしむることが出来るかどうかといふ問題と同じであらうと思ひます、即ち地の利といふものは固より都市發達の基礎で、丁度人間の素質と同じではあるが、人爲を以つて人間の心身の發達を盛

ならしむることが出来ると同じく、都市も亦人爲を以つて著しく發達させることが出来るのであると信じます、而して其の道の第一は都市の教育にあることは勿論であります、所謂都市計畫事業なるものも亦與つて力あるものであることを忘れてはなりません。

人には餘暇といふものがあります、八時間寝て八時間働くとするれば八時間の餘暇がある、また八時間寝て十時間働くとするれば六時間の餘暇がある譯である、此の餘暇は都會では之を悪用せんとすれば極端に悪用が出来る、悪用の設備は都會には至れり盡せりである、若し此の餘暇を善用せんとすれば之れ亦極度に利用することが出来るのであります、都市に於ける市民の餘暇問題殊に青年の餘暇問題といふことは、都市の經營上一つの重大問題であります、さて餘暇の利用には色々のものがありますが、其の一つは確かに心身の保育であります、即ち大小の公園は申すまでもなく、其他自然の生活に近づかせる所の設備を設けて、清新の氣を市民に與へるといふことは

一つの方法であります、其の二は公衆の娛樂所殊に運動場の設備であります、市民の心身を健全ならしむる所の適當の設備であります、都會の青年に運動のグラウンドを與へずして、彼れを誘惑から遠ざけるといふ事は、無理な相談であるといつてよからうと自分は思ひます、餘暇利用の三は實に之れを以つて教育の時間に充つることである、従來外國に於いては教育的に餘暇を利用するといふことには非常に力を用ひて居る、所謂ユニバシター、エクステンションなどいふことも之れであります、青年に對してばかりではなく、都市に於ては絶えず講演會の如きものを開いて、市民に都市生活上の必要な知識・心得を授けることに努むる必要があると思ふ、都市人には其の常識として道路・電氣・瓦斯・運輸・交通・通信の機關等のこと及び是等が商工業乃至日常生活に如何なる交渉があるかといふこと位を心得て置く必要がある、又上水道・下水道・公園といふやうな衛生的の設備が如何に必要であるか、如何に役立つかといふことを特に知つて置かねばならぬ、其他都市百般の公營的事業・公共的事業と

いふものが如何に都市の生活能率を助長するに必要であるかといふことも充分知り置くを要する、更に進んでは其の都市が國に對してどういふ地位にあるか、殊に經濟上の地位がどうであるか、また其の周圍の地方に對してどういふ地位にあるか、或は其の都市は如何にして成立して居るか、其の各部分が如何に連鎖し、如何に構成せられ、如何に運轉して居るのであるかといふやうなことの知識も決して不用ではない、斯くの如く、都市人として特に必要な常識を養ふ爲めには、都市に於ては絶えず講演會を開くことが極めて必要であると思ふのであります、先程都市計畫といふものが、都市の健全なる發達を導く上に大切なりと申しました、近來都市計畫といふ聲が著しく盛んになつて來ました、一體都市計畫とはどういふことを意味して居るかといふに、之れを一面より見れば、陸續として集中して來る所の人及び之れに伴ふ事業といふものに對應する所の策を立てることでもあり、亦一面より之れを見れば商業・工業等を健全に振興をさせる爲めの策であります、大正八年に都市計畫法なるものが發布せられ

たが、其の第一條には都市計畫の何であるかを規定して、斯ういふことを述べてある、  
「本法に於て都市計畫と稱するは交通・衛生・保安・經濟等に關して永遠に公共の安寧を維持し福利を増進する爲めの重要施設の計畫であつて市の區域の内外に亘るものである」とある、即ち宛も政治の根本を云ひ盡して居るやうに大風呂敷を擴げて居るのであります。

茲に私は近來の都市は如何に甚しき密集生活に陥つて來たかといふことを、お話し  
て見たいと思ひます、最も甚しい例をこゝに取らうと思ひますが、それは東京であります、他の都市に於ても勿論甚しきを見るのであります、地方的に偏する恐あると思ひますから、東京を例として話して見よう、東京市の地面積總計は約二千三百萬坪あるが、此の中には約八百萬坪の官有地と約四百萬坪の道路があるし、工場とか公園もあるから、單に宅地になつて居るものは千三百萬坪位しかない、往時人口が八十萬足らずの時分であれば、大分裕つくりもして居つたが、二百二十萬の人口となつた今

日に於ては、一人當りの宅地の坪数は平均約六坪弱になつて仕舞つたのであります。所が、また東京には村落には見ることの出来ないやうな廣い宅地が可なり澤山あるが爲めに平均が六坪でも一般人の割當は甚しく少くなつて居るのであります。即ち下層階級宅地に於いては、一人當りの坪数は驚くべき程小さい、一番下層即ち下から一割位の人口の占有して居る所の宅地は、一人當り約一坪位にしかなつて居りませぬ、此等の事情は獨り東京許りではなく、大阪でも横濱でも各、大都市に於てそうでありませぬ、新潟市も私の見る所では餘程甚しき密集部分があるやうである、新潟市は外の都市に較べて裏屋の多い所であると思ひます、甚しき密集といふことは正に都市計畫事業といふものゝ起つて來た源であります。

都市計畫事業中の二三に就て茲に話を進めやうと思ひますが、都市計畫事業の一つは地域の制定といふ事である、地域制とは丁度之を家に譬ふれば其の間取と同じであつて通常之れを四つに分けるのである、即ち工業地域・商業地域・住居地域・混合地

域がそれであり、市街地に多人数が集つて各、様々の事業をなし生活を営むに當り、其の配置に規定を設けることは、土地の利用を最も有効にする道であつて、また土地の設備を最も有効ならしむる所の方法であります、是等四つの地域の中で一番重要視すべきものは工業地域である、工業は前にも申したやうに都市の成立の一つの重要な要件で、工業は都市の策源地である、故に市民は工場を十分優遇すべき筈であるが、一面から云へば煤煙を飛ばす、汚い水を排出する夥しいといふ譯で市民には随分迷惑をも與へます、若し工場といふものを全然放任して建てさせると、即ち自然に出来るに任せて置くといふ事になるかといふに、或は河の岸其他は運輸の便のある地價の高くない所に一般に寄り集まるが、次から次ぎとこんからがつて來て、遂には多數の工場の利害が衝突して來て、遂に不結果を來します、のみならず放任の結果は地の利にかまはず都市のごの部分をも侵したがる、即ち偶、地價の安い所があれば直に工場となり勝である、其の結果は遂に工業家も他のものも御互に困るのであります。

す、始めは左程でもないが、段々工場の數も多くなるに従つて、工場其の物から言へば、御互ひに連絡もなく、設備に於いても十分に出來ないで、甚だ能率が擧げ難いといふ事になり、市民の方から言へば八方から煤煙を飛ばされる、到る所から不潔物を吐出されるといふ事になつて甚だ迷惑をするのであります、今日東京・大阪の如きは、此の結果、非常に困難をして居るのであります、今若し或る時期に於いて都市に地域の制を設け、工業地域といふものを都市の一端十分發展する餘地があり又運輸の便のある所に設けて、此所に公共の力によつて色々の設備即ち運輸は素より排水・給水の便を十分に設けて工業を助長する方法をとつたならば、工場の方は非常に能率を増すことが出来るし、市民の方は害を受けないで利益のみを受けるといふことになり得るのであります、一番先きに此の點に着眼したものは獨逸である、フレデリック、ハウといふ米國の學者の書いたものに、「獨逸の皇帝は軍艦を造ると同じ熱心さで工業地域を造つた」といふことが書いてあるが、獨逸の工業の發達は獨り其の工學の力ばかりで

はないと思はねばなりません、工業地域を設けて、其の設備を完成した事によつて驚くべき發達をなした好例は、獨逸のデュッセルドルフ市であります、人口十萬に足らぬ所の町であつたのが、此の計畫を完成した結果、非常に發達して三十年ばかりの内に、五十萬近くの盛大なる大都市となつたのであります、此の事を詳述した本を茲にもつて來て居るが、是は模範的都市經營といふ名の本で、亞米利加人のフレデリック、ハウの著を牧野法學士が譯したものであります、都市經營といふものが、都市の發達に對して如何に力があるかといふことをよく書いて居ります、只今は工業地域のことを申しましたが、其の他商業地域・住居地域・混合地域のことについても其の緊要さに大差ありません、其等の話は時間の都合上略します、都市計畫は地域の設定を始めとして道路・河川・鐵道等交通運輸系統のことや上水・下水・公園・病院等の衛生設備、瓦斯・電氣等の供給の事業等にも亘るが、凡そ是等の諸事業といふものは、皆永遠的考慮に依て統一せる計畫になされねばならぬ、此の永遠の計畫の下に、一步一步

實行せらるべきものであります。

都市に必要とする事業の中には、其の都市の性質と大小とに應じて、都市自らの事業となすべきものが多々あります、即ち獨占的性質のあるもの、公共的の性質のもの、また公共の力によらなければ發達することの出来ないもの等は、都市自らの事業とするを要するものであります、外國には都市が様々の事業をして居る例が多々あります、病院・市場などは勿論其の他非常に廣く色々のことを都市が經營して居る、住宅其の他の家屋・湯屋・質屋・銀行といふものを市自ら經營して居る所もあります、而して市の財源といふものは、主として是等の収入によつて居る所さへもありません、斯ういふやうな市は實に徹底的に一都市たる共同生活の實を擧げて居るといつてもよいと思ひます。

都市自らの事業たるべきものは澤山あるが、其の中で私は少しく住宅のことを申して見たい、都市の事業としての住宅の經營のことについて所見を申さうと思ひます、住居問題は數年前から日本でも火の手を上げて來ました、即ち何處の都市にも一の大問題となつて來たが、其の筋では之れに對してどういふ手段を講じたかといふに、政府では大正九年と十年とに約貳千萬圓の金を支出して、之れを各地に分布し住宅の建設の資に充てしめたのであります、之れによつてどれだけのものが出来るかといふに、日本全國に約一萬戸位は増加するであらうと思ひます、其の後今春政府は住宅組合法を發布しました、政府の是等の骨折によつて、住宅問題はどう片付き行くかといふことについて所見を述べたい、元來住宅問題はどういふ譯で起つて來たか、住宅問題は一口に言へば量の不足と質の不良といふ此の二つのが一つになつたものであります、大正八年に内務省は各地に照會して、御前の地方では今日住宅が差當りどれだけ不足をして居るかといふことを問ふて、その答を總括して見た結果、日本で約十二萬戸といふものがあれば宜しいといふことが知れた譯になつて居るのであります、併し乍ら、之れは本當に現在丈の不足數であつて、明日になれば又更に十二萬



戸も不足だといふ譯にならねばならぬのであります。日本の人口は年々七十萬以上宛増加いたします。さうすると其の増加した所の人に對して約十五萬戸の家が新に必要であります。其の外に焼けて行くものと、腐れて行くものとに建てて行くべきものが年々約十萬戸はある。さうすると日本では年々二十五萬戸といふ大數を新たに作らなければならぬのである。此の中で年々どれだけの家が實際自ら作られつゝあるかといふに、統計の完全なものはないが約十二三萬戸位らしい、斯くして残り約十二萬戸といふものは作られずに年々溜つて行くのであります。即ち日本では年々約十二萬戸づゝ不足を増加して行くといふことになるのであります。即ち不足は年々積つて行くのであります。殊に都會は人口が非常の率で増加して行くから大速度で家が建てられねばならぬにも拘はらず、必要數の三分の一も作られぬやうの状況にあります。例へば東京市内に於いては年々四五萬の人が殖えて居るが、住宅の數は殆んど殖えない、ごし／＼建つやうであるが、一方には大きな建築の爲めにつぶされもするか

らして、東京では近來は住宅の數は年々少しも殖えないといふ状態であります。斯くして現在有る家に人は密集するより外ありませぬ、それであるから激しい地區になると、一人について疊一疊程にしか當らぬといふ所もあるのであります。斯くの如きは東京に於いてばかりではなく、先程も申したやうに各地に於いて、殊に下級の方面に現出して居る所のものであります。之れは日本に特有の現象であるかといふに決してさうではなくて、日本こそ近來になつて目立つて來たのであります。外國では餘程以前から生じて來た現象であります。この現象は所謂現代の經濟組織の上に深い根底を有つて居ると見る事が至當であると思ひます。今日の經濟組織の結果としては、段々無一物の人間のパーセントは殖えて行くのである。英吉利に於ては人口の八十パーセントは無一物者であるといふことである。他列強と雖も無一物者の率は餘り下らない、是等無一物者といふものは、其の日／＼働いて得た所の賃銀によつて生活をして居るのである。其の人達は必ず住宅の費用を儉約をする。元來人が住宅を必要とすれ

ば住宅は之れに従つて殖えて行く筈であるが、今日のやうに多數の人は住宅によつて出来得るだけの儉約をするのであるからして、今日住宅を貸すといふことは餘り利廻りのよい營業ではない、銀行の定期預金よりは利廻りはよいかも知らぬが、金を運轉する他の營業に比しては悪い、殊に景氣のよい時期に於ては儲からぬ住宅を建てるものは少ない譯であります、それ故に之れを放任して置いたならば貸家の不足は遂に免れられないのである、政府が貳千萬や參千萬の金を出して呉れる位では不足を救ふ譯には行かぬ、年々の不足に對しては年々貳億圓づゝも必要なのだ、住宅組合法といふものが出来たといつても、是も大した救濟になると思へぬ、此組合法の大体の精神は中産階級の人をして、住宅を建設し所有せしむる目的で出来たのでありますが、どういふ工合の運用になるかといふに、中産階級のもものが數名或は數十名をもつて先づ組合を作り、府縣知事を通じて政府から低利資金を借りる、其の金を以つて組合が家を造る、造つたら組合員に其の所有權を移す、組合員は一定の掛金をするが家は組合に

抵當に入れて置く、其の掛金をして十五年なり二十年の間に借りた金を全部返すので、掛金を完了すれば其の家は完全に組合員の所有となるのであります、組合員は一人一戸に限られ、其の家の大きさにも制限があるやうであります、今日各官公署の吏員等が、より／＼組合をつくつて金を借りやうとして居るやうであるが、之によつてどれ程の住宅を國中に増加することが出来るかといふことの見當をつけて見ると、甚だ心細いものであつて殆ど不足救濟などと稱し得る程は出来やうがない、實に組合法はなきにはまさるが不足救濟の實を擧げ能はない、其の上に質の點から見ると、家屋の改良にも餘り役立たぬ、都市には集合住宅も多數に造らなければならぬが、集合住宅は此の組合法では事實上出来ない、又都會の建築物は可及的に之を耐火的にする必要があるが、さういふことの政策は此の住宅組合法には含まれて居らぬ、或は却つて安物増加といふことになるかも知れぬ、また細民の方には影響が多く及ばぬ、而して生活様式の改善といふことも此の法の精神には含まれて居らぬのであります、量の方に

就て云へば、或階級は點線で救はれるとも云ひ得やうが、質の方に就ては毫も救はれるとは云ひ得ない、殊に最も住宅の不足を告げて居る所の下層に對しては、少しの解決にもなつて居らぬといつてよいのであります、そこで近頃政府は又新に住宅會社法案なるものを發布せんとして居る様子であります、元來各官公署等では、其の吏員に對して官公舎を供給するといふことが最も望ましいことであり、同じやうに多數の従業員をもつて居る會社は其の社員に亦住宅を供給すること、殊に工場は職工に對して家を供給することの如きは最も望ましきことであります、住宅不足救済といふことの最有効の途は、やはり住宅會社法といふものと完備にあることを私は信じます、私は茲に英吉利の住宅供給の有様を申したい、英吉利國政府は近頃如何に力を注いで居るかといふに、英吉利政府は餘程前から住宅の經營といふことに色々骨を折つて來たのであるが、近來國自らが大いに金を支出して家を造ることの必要に迫られ、昨年以來五十萬戶計畫なるものを遂行するに至つた、戦後五十萬戶も住宅を建てなければな

らぬといふので、特に衛生省を設けて之れにあたつて居るのであります、そして公共團體其の他のものに非常の方法で起債をすゝめてどん／＼家を建てさせる、一戸建てるにそれには非常に澤山の補助を國が與へる、金を三分の一位呉れることになる、それ程に補助をして居るからして、此の計畫がうまく行つてどん／＼と目下家が建ちつゝあるのであります、國は今日までに約五億圓の金を支出して居るのであります、爲めに政治上の問題を惹起して衛生省大臣は辭職をしなければならぬやうになつた、それだけ有効に家が澤山出來たのである、さて英國はこれだけ直接に力を注いで居るのであるが、私が前に希望するといふた住宅會社といふものはどういふものであるかといふに、解決點を下層に置くことゝ質の改善を伴ふことの必要上、どうしても國と公共團體とが密接なる關係を有するものでなければならぬ、而して之に要する資金は之れを主として民間に待つといふのであります、今日の國の財政では見込がないから金丈けは民間に待つのである、そこで國と公共團體と民間とよりなる、即ち半官半民の

大會社を各都市に起すといふことが一番よいと思ふ、斯ういふ性質の會社法の出来ることを自分は望んで止まぬのであります、兎に角現在の住宅難の解決の方法としましては、政府は之れを其の大政策の一つとして呉れるのでなければ六ヶ敷いのであつて少し位の姑息の遣り方では駄目であります、教育の振興・交通の完備とかいふ大政綱と並べるやうにならねばならぬ、住宅は生活の基礎である以上、政策の中でも根本的の大政策の一つとして然るべきものであると思ひます。

可なり永い時間を費したことであるから、都市の話は之れ位で切り上げにしたいと思ひますが、終りに臨みまして、都市の教育について、教育に御關係の方々に特に希望をしたいことが一つあります、それは道德の基礎觀念、都市人としての道德の基礎觀念のことであります、都市人はちり／＼ばら／＼でありながら、一面却て密着した生活をして居る點は村人と大いに違ふ所であります、それは先程も申したが、村落では他人との交渉のあるといふ場合は、其の他人といふものは皆知人である、親近者で

ある、然るに都會殊にそれが大きくなれば大きくなる程皆知らざる人である、自分の家の前を通る人は皆知らざる人である、一步戶外に出ると自分に行き違ふものは皆知らざる人である、故に都會生活に於いて大切なることは、此の知らざる人に對する實際であると思ひます、日本人は親近者に對する道德に於ては、世界に冠たるものがあることは疑ひない、親子・夫婦・親族・朋友に對する關係即ち親近者に對する道德は確かに世界に冠たるものがあると思ひます、而して君主に對する道德之れも親近者に對する道德の延長である、我が物といふ觀念の延長であると考えます、また國に對する道德も矢張り同様である、然るに知らざる人に對する道德といふものは、遺憾ながら外國に比して甚しく遜色ある現状であると思ひます、汽車や電車に乗るとき知つて居るものに逢ふと、大いに謙遜して互に席を譲り合ひ、後に知らぬ人が迷惑して居るにも拘はらず、猶盛んに互に譲り合ふ程であるが、一朝知らぬ人と席を争ふことになると、忽ち性格を一變して恰も仇敵に逢つたやうにいがみ合ふを見ることがある、斯

くの如くしては知らざる人の集合は成立し得べくもない、實に都市生活者に必要なる  
道徳は、親近者に對する道徳ではなくして知らざる人に對する道徳である、何方かこ  
いへば、親近者に對する道徳には少し位欠くる所あつても寧ろ知らざる人に對する所  
の道徳を重んずる必要があるといふ考へで修養しなければならぬと思ひます、此の點  
は都市に於ける教育殊に補習教育者に於いて特に御望みしたい次第であります。  
長いこと御清聽を煩はしました。(拍手)

# 農村問題

東京帝國大學教授  
農學博士

横井時敬

## 農村問題

諸君、私は多数御集りの此の席上に於いて、一場の御話をいたすことは頗る喜ぶ所であります。

私の御話しやうとする問題は農村問題と云ふのであります、農村問題と云ふのは非常に廣い問題でありまして、農村には各種の問題があるが、其の各種の問題を一つ一つ御話すると云ふことは出来ない、殊に教育家の諸君が多数御集りのことであるからして、諸君の御参考になるやうのことを、澤山にある問題の中の一部を御話をいたしたいと思ひます。其の前に此の御話をいたすと云ふことについて、少しく御断りをして置く必要があると思ひます、吾々學究者と云ふものは各、其の立場を異にして

居るのでありまして、其の立場を異にして居るからして議論の出発点が違ふ、従つて又結論も違つて來るのであります、同じ農村の問題を論ずるにしても、經濟上の問題として議論するものは總てを經濟上の問題として論ずる、又道德上の問題として論ずるものは何處までも道德問題で押して行く、幸、不幸と云ふ問題として論ずるものは何處までも幸、不幸の問題で結着をつける、國家問題でやるものは何處までも國家問題で行くと云ふやうに、各、出発点が違ふからして従つてまた結論も違ふと云ふことになるのは當然のことです、それで學究者は或ることを論ずる場合には、他のことは總てないものとしてやるのであります、之れは今日の學問の然らしむる所で、何もかも論ずると云ふことは今日の學者には望むことは出來ないのであります、經濟上のことを出発點としてやる時は、道德上のことは問題とせぬのであります、人によると私は經濟學者ではあるが、經濟のことはばかりではなく、道德のことも無視せぬなどと云ふ人があるが、そんなことは言はぬでもよい、經濟的に見る時は經濟のこ

とばかり考へて道德のことは考へないでよいのであります、國家のことを考へる時には外のことは考へることはいらぬ、幸福を考へる時には國家のことを考へないでよい、之れを全部研究すると云ふことは出來ないことであるからして、議論する時には唯自分の研究して居ることばかり考へて、他のことは毫も考へに入れなくてそれでよいのであります、物理學者は化學のことを考へないでよい、化學者は物理を考へないでよい、動物學者の見解と心理學者の見解とは違つてよいのであります、今日は總ての學問は皆分解して研究せられて居るのであるからして、其の分解をして居るものをおの人は間違つて居るなどとはいはれぬのであります、唯學者としてそれを實行しやうとか或は實行するやうに主張すると云ふことはよろしいが、自分の説の外は皆間違つて居るやうに宣傳しやうとするのは間違ひである、それを強いてやらうとするからして、そこで危険思想と云ふものが起つて來る、それが危険思想である、學者の云ふことは實に立派であるが、之れを普通の考へでまたうまく宣傳せんとすると危険があ

るのであります、經濟上のことについても、人間は富と云ふものがないと生活することは出来ぬと云ふが、吾々は生きて居るには唯それだけではないと思ふ、いくら富が澤山にあつても何にかの原因で死ぬことがあれば、富と云ふものも其の人にはなくなつてしまふ、四百四病の病より貧よりもつらい病はないと貧乏人はいふて居るが、金持は金よりも身体が第一であると云ふのであります、然らば農村問題について、私はどの立場から御話するかと云ふことを考へなければならぬ、そこで私は農村の幸福と云ふことを考へ、それが即ち進んでは社會の爲め、國家の爲めであること云ふことを考へて國家があつて社會がある、社會があつて吾々がある、吾々の幸福があると云ふやうに考へる、さう云ふことを考へるより考へやうがないからして、私は先づ幸福と云ふことを考へて見たいと思ひます。

先づ農村と云ふものはどう云ふものか、農村と都會とを相對して考へると、都會と農村とは根抵に於て違つて居るのである、都會にも色々の都會がある、工業の都會、

商業の都會と云ふやうに色々ある、日本には元の城下と云ふやうのものもあるが、これにしても皆都會の通有性をもつて居る、一つ二つ都會を見ると、都會と云ふものは何處も同じやうのものであつて、都會と云ふものは研究するには案外容易いものである、六ヶ敷いことを話せば六ヶ敷くもなるが、案外に容易く研究の出来るものである、都會の附き物は貧乏人に金持である、都會には色々の悪いものが居る、掏摸も居る、泥棒も居る、火付けも居る、また都會には労働問題と云ふ八釜敷い問題がある、労働者が澤山にあつて其の労働者が資本家に對抗して居ることは何處の都會に於いても變りはない、また變りのないやうになりつゝある、亞米利加も英吉利も日本も同じ様に近頃はなつて居るのである、また都會は騒々しい、電車ががん／＼鳴る、自動車があ／＼やつて行く、何にかかんと實に騒々しいこと夥しい、鐘も御寺に餘計の鐘は打たせぬと云ふことにしなければならぬ、或は煙がうるさい、少し都會が繁華になると、煙の爲めに白い着物が一日の中に眞黒になるから、煙を防止しなければならぬ、



之れが都會の通有性である、喧嘩とか何とか人生社會の悪い方面の多いのも都會の通有性である、日光が不足して空氣が悪いと云ふことも都會の通有性である、あらゆる階級のものが、種々雑多のものが、都會には住んで居ると云ふことも都會の通有性であります、之れに對して田舎、農村と云ふものはどうであるかと云ふに、都會とは非常に違つて居るものがあります、都會と農村とを分つに人口をもつて分つものがある、一萬以上の人口をもつて居るものを都會とし、一萬以下を村落と云ふが、之れは間違つて居る、一萬以上を都會とするといつても、五萬もある農村があつたら、それも都會であるといはなければならぬ、日本は少し大きい村になると、二千戸以上もあるから之れは人口が一萬二千位になる、人口の數で都會と農村とに分けることは出来ない、また農村は人口が稀薄であると云ふが、稀薄であると云ふことも餘り適當でもない、日本の農村は道の所に集つて居るからして、農村に於いても道の所と外の所とでは、稀薄と云ふことも非常に程度が違ふのである、また亞米利加や歐羅巴に較

べると違ひがあるのであります、歐羅巴は可なりに集つて居る所もあるが、亞米利加に至つては、遠い所に彼處に一軒、此處に一軒と云ふやうにポツリ／＼とあるのであるからして、教育上に於いては仲々問題である、小學校といつても六人位の學校が多いのであつて、田舎の小學校の三分の一は之れである、十人以下の學校は過半はさうである、之れは稀薄なる極度である、それ故に亞米利加の小學校には一教室の學校が澤山ある、六人や十人の學校に幾つもの教室を置くと云ふことは出来ないからして、さう云ふ所は遠い所の學校に行かなければならぬから仲々厄介である、甚だしきは教員が必要であるが得られない、女教員が一人であるから、其の女教員の身上甚だ危険を感じる、そこでピストルをもつて出入りをするると云ふやうの譯であります、それで近頃は學校を集めると云ふ運動が盛んに行はれて來て、學校を集合して大きくせしむると云ふのであつて、そこで子供の通學と云ふことに對しては、馬車を用ひて時間になると馬車で子供を集めに廻る、時間が過ぎるとまた馬車で子供を落して歩くと云ふ

ことにして居るのであります、斯う云ふ所は最も人口の稀薄の所であるが、歐羅巴でも百戸位の農村は普通のものである、獨逸の農村の作業學校と云ふものがあるが、二十人から五十人位のもので多くて百人以下である、八ヶ年であるからして之れを八學級にすると云ふことは遣り切れないからして、二學級とか、三學級にして置く、甚だしいのは單級の教授も少くないと云ふことであるが、此の點は日本は非常に幸福であつて、非常に邊鄙の山奥は知らぬが、普通の農村では二部教授はしなければならぬ所もあらうが、單級はない、皆多級制の學校になつて居るのであるからして、教育上に於いては日本は非常に幸福の地位にあると云ふべきであります、それで日本はどう云ふものか、昔から家が寄り集つて居るが、それでも都會に較べれば稀薄である、之れも一軒の家として考へると大變に違ふ、東京にもあるが、以前から東京には金持は馬鹿に大きい家を立つて居る、田舎の貧乏人は家屋敷を入れても馬鹿に大きいと云ふことはない、貧乏人は八疊一間位の一軒の家もあるから、此の點では東京の方が稀薄だと

云ふ事になる、日本の農家の耕地は少いが一戸について一町歩餘りになるから、此の點から考へると稀薄と云ふ事になるのである、倫敦のやうに一坪に十人も住んで居ると云ふ事から考へると、東京は稀薄と云ふ事になるが、兎に角農村は人口が稀薄であること云ふ事が都會と違つて居る點であります、そこで農村に住んで居るものは都會に住んで居るのと違つて主に一種の職業である、耕して居る其の仕方は違ふかも知らぬが皆耕作を仕事として居る、其の外に養蠶もするが之れも皆がやるのである、強いて區別をすれば小作人・地主と云ふものがある、地主には色々な意味があるが、自分で農業をせぬ、よししてもそれで生活をして居るのではなくて、小作料で重なる生活をして居るのである、それに對して小作人がある、其の外に自作と云ふものがある、自作兼小作と云ふものがある、斯う云ふやうに種類があるとしても都會に比して餘程種類が少い、それから農村には色々な故障が少い、故障があるにしてもそれは都會に比すれば非常に少い、それ故に一村に巡査が一人である、廻つたしるしに箱のやうの中

に入れて行く、若し用事があつて行かれなければ言付けでもすむと云ふ譯である、唯殆んどないが、小作人の問題でも起きて来た時には巡査が不足をする、農村には警察問題と云ふものは非常の重大問題であります、喧嘩も子供の喧嘩位のものでめつたに警察官の來ると云ふやうの事はない、泥棒も元はあつたかも知れぬが、今頃農家に入つても何もありませんから、農村では商賣にならぬからして、専門家は都會に居るから實に穩かなものである、唯厄介なものは政黨とか云ふ厄介なものがあるが、常にはそれも問題を起すこと云ふ事はあるまいと思ひます、萬事が實に穩かなものである、これが農村の通有性であつて、騒々しい事などは少しもないのであります、それから始終日光に浴して居るからして都會の人は羨ましいと思ふでせう、また新鮮の空氣を常に吸ふて居る事が出来る、いつも青い葉を見て居られるが、都會はそれに反していつも黒いすくけたやうの所に住んで居らなければならぬ、動物園や小鳥屋にでも行かなければ聞くことの出来ない鳥の聲も、田舎の人はいつも聞いて居る事が出来る、

虫を籠の中に捕へて入れて置かぬでも、田舎では始終聞いて居ることが出来る、都會と田舎を比べて見ると、自然を楽しむと云ふことは田舎でなければ駄目である、それ故に田舎に居ればどうしても長生をせねばならぬ、長生をしないと云ふのは嘘であると思ひます、それに對して都會と云ふものはどうかといへば、都會には娛樂、樂みと云ふものが澤山にある、其の中には感心せぬものもあるが、兎に角澤山にある、田舎の教員諸君は、盆踊は卑猥で悪いといつて居るが、之れは田舎では大切な娛樂の一つである、或る所の教員は盆踊を研究したいと云ふことを校長に話したら、校長からそんな下等のものを研究するとは何事だといつて大層御叱りを受けたと云ふことであるが、今はそんな野暮の校長さんは居らぬであらうと思ひます、さう云ふ校長は都會の校長にでもなつたら、一日も居ることは出来ぬであらうと思ふ、都會には色々の娛樂何でもある其の中には下等の娛樂も日夜あるが、また上等の娛樂も日夜受けることが出来る、安芝居なども始終あるからして、土曜だ日曜だと云ふ時に僅かの

金があれば何かの娯樂を受けることが出来る、然るに田舎はどうかと云ふに、此の間、農村に娯樂を興へると云ふことで、峯田と云ふ男が浪速節語を連れて行つた、都會では廢れて居るのに田舎ではこんな面白いことは生れてから始めてだといつて喜んで居つたと云ふが、斯う云ふことが田舎と都會との違う一つである、其の外一つ、御話することは出来ぬが、諸君は既に御承知のことですから申しませぬ、物質文明と云ふことは、田舎に於ては都會のやうに進むことは出来ない、物質文明に於いては、田舎は都會と競争することは出来ぬが、田舎には田舎の文明、田舎の長所と云ふものがあるからして、それを進めて行くと云ふことが大切である、之れが農村に近頃流行の文化的運動と云ふものである、田舎では都會のやうに芝居・活動・寄席に行くこと云ふことは出来ない、また都會のやうに夜が赫々として白晝のやうにすることは出来ない、けれども田舎は常には暗くても、月の夜には都會に見ることの出来ない光景をあらはすのであります、墓場といへば暗いものとして居るが、都會の墓場は明いので

あります、之れも田舎と都會との違ふ點であります、村落に對する文化運動としてはどう云ふことをすればよいかと云ふに、近頃亞米利加に農村社會學と云ふものがあつて其の研究が流行して居るが、夫によると田舎では民衆を社會化ソシヤルゼーション社會化しなければならぬと云ふことが頻りに流行して居るが、亞米利加のやうに廣々として居る所であつたら、此方に一軒、彼方に一軒と云ふやうになつて、自動車のない時は、町に行くには馬車で行つて来るに一日もかゝるから、めつたに町に行つて見ると云ふことは無い、隣の人の話を聞くこともないのであつて、電話が出来たので始めて機械を通して人の聲を聞くことが出来た、近頃自動車が出来たので一二時間で町に出られるやうになつた、今は病人があつても電話で醫者を呼ぶと、自動車で走つて来るやうになつたのであるが、斯う云ふやうに以前は人と人との交渉は六ヶ敷かつたのでありますから、之れに對して人と人との交渉、民衆の社會化と云ふ問題が、亞米利加に起つて來ると云ふことは當然のことであらうと思ひます、然るに日本はどうか